

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2020年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業61、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業47
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：199社（73.1%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— 市内景況は、悪化している —

前年同期（2019年10月～12月）と比べた今期（2020年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（2021年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲36.8で、前年同期と比べ34.1ポイントと大幅に低下しました。前半はG o T oキャンペーンによる業況の回復傾向が見られたものの、後半は新型コロナウイルスの第3波によって再度停滞し、全体的に低調な推移となりました。

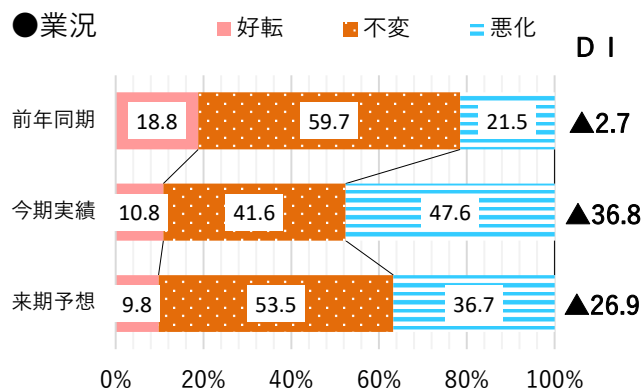
業種別DIは、製造業が同30.3ポイント低下の▲32.6となりました。需要の停滞が続いており、売上が大きく減少しました。卸売業は同45.2ポイント低下の▲50.0となりました。仕入単価の上昇傾向や引合いの減少、資金繰りの悪化による業況の悪化が続いています。小売業は同2.2ポイント上昇の▲20.0となりました。客数の減少傾向が続いていますが、客単価の上昇や資金繰りの好転によって、業況、売上、採算いずれもマイナス幅が縮小しました。運輸・倉庫業は同36.4ポイント低下の▲31.2となりました。旅客運送は全ての企業で、貨物運送は約8割の企業で売上が減少したとの回答がありました。倉庫は在庫量や保管残高が増加傾向にあり、売上が堅調に推移しました。観光業は同79.2ポイント低下の▲82.3となりました。客単価の下降傾向は前期実績値と比較して緩和しましたが、業況、売上、採算全てのDI値が▲70.0を下回っています。また、従業員数は前年同期比で大幅な減少に転じましたが、飲食店、土産物店を中心に従業員数の過剰傾向が続いており、深刻な業況悪化の影響が伺えます。サービス業は同45.3ポイント低下の▲33.3となりました。業況、売上、採算全てが大幅に悪化しており、飲食業を中心に悪化傾向が顕著です。需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同4.0ポイント低下の▲8.0となりました。業況、売上、採算いずれもマイナス水準で推移しましたが、大幅な悪化傾向は見られませんでした。従業員数は増加に転じましたが、依然として不足の傾向が続いています。

来期の業況判断DIは▲26.9で、悪化傾向が弱まると予想しています。市内のクラスター発生や首都圏の緊急事態宣言発出、G o T oキャンペーンの停止、さっぽろ雪まつりの中止等が影響し、業況の回復には時間がかかると予想されます。

業況、売上、採算

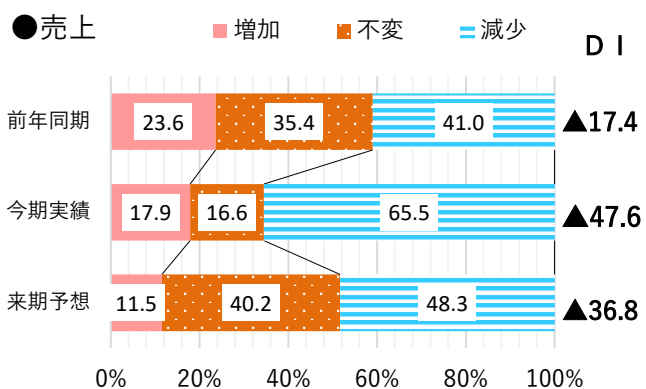
今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲36.8で、前年同期(2019.10～12)と比べ34.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



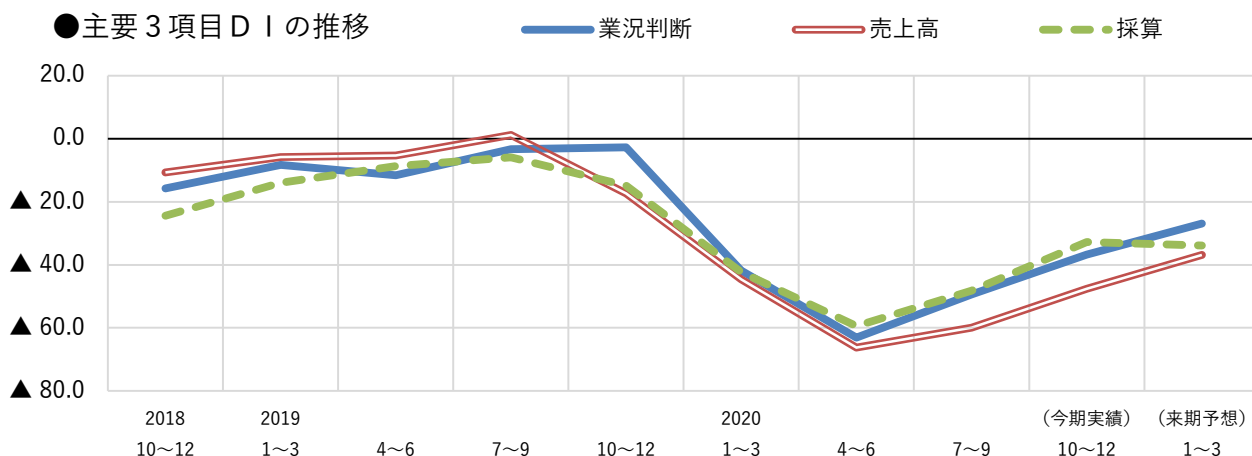
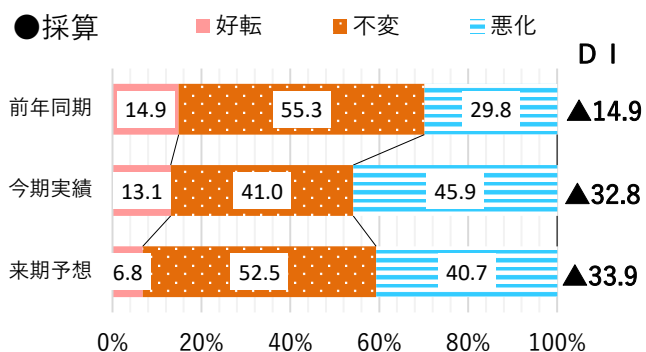
今期の売上DIは▲47.6で、前年同期と比べ30.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲32.8で、前年同期と比べ17.9ポイント低下しました。

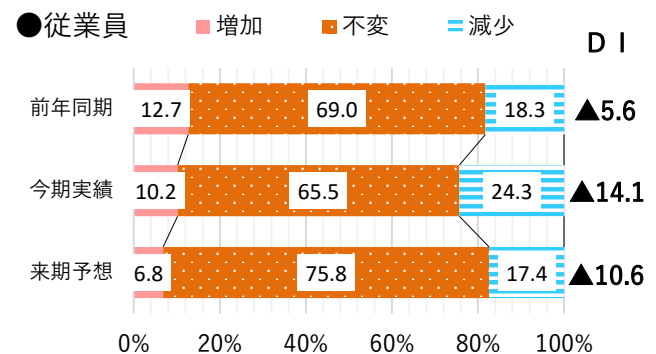
来期は、採算の悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。



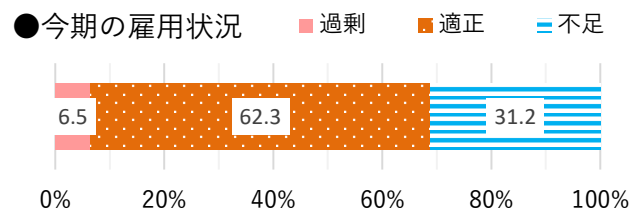
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲14.1で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.5%、適正であると回答した企業の割合は62.3%、不足していると回答した企業の割合は31.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の45.7%を占めています。

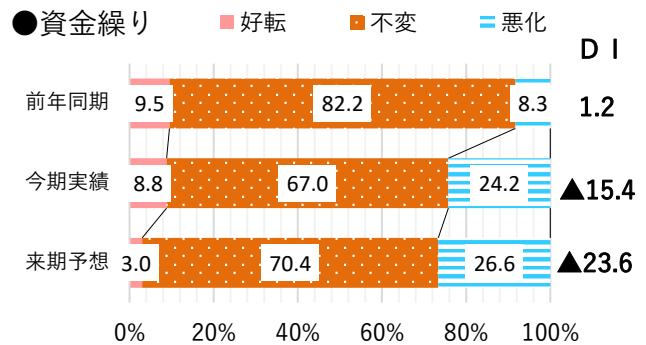
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	13
	不足	7
不変だった	過剰	8
	適正	91
	不足	31
減少した	過剰	7
	適正	22
	不足	20

資金繰り、設備投資

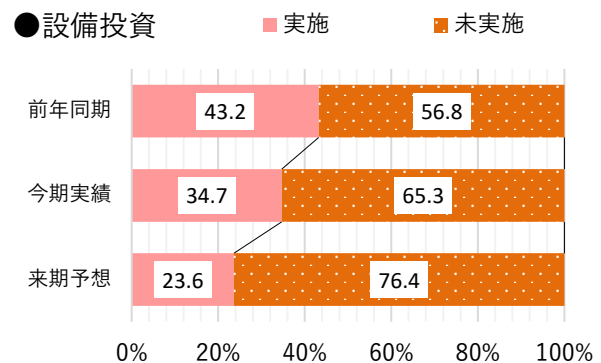
今期の資金繰りDIは▲15.4で、前年同期と比べ16.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった199社の34.7%にあたる69社が実施、前年同期と比べ8.5%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、23.6%にあたる47社が設備投資を計画していると回答しています。

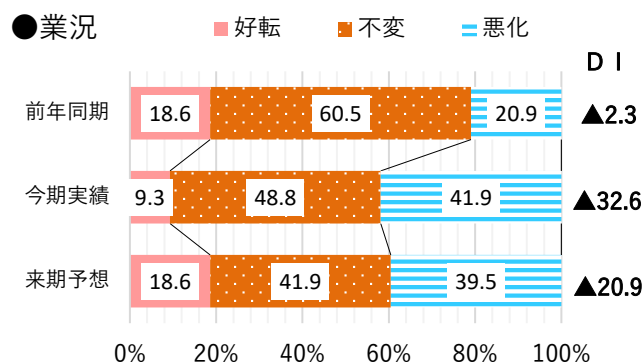


製造業

業況、売上、採算

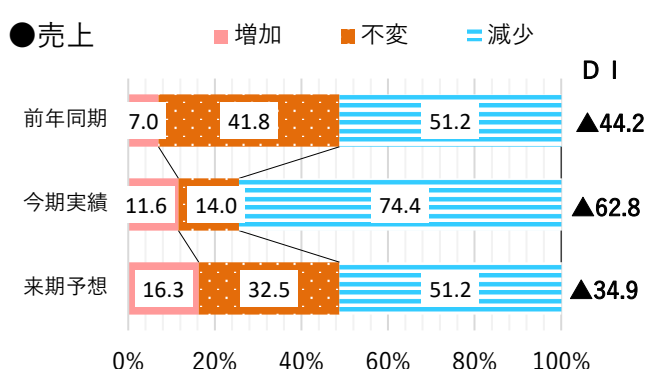
今期(2020.10～12)の業況判断DIは▲32.6で、前年同期(2019.10～12)と比べ30.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2021.1～3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



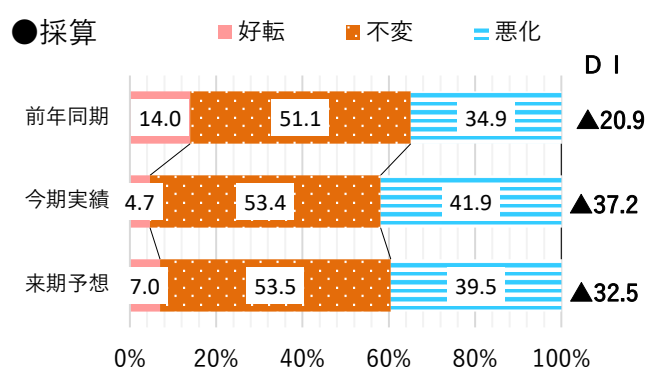
今期の売上DIは▲62.8で、前年同期と比べ18.6ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

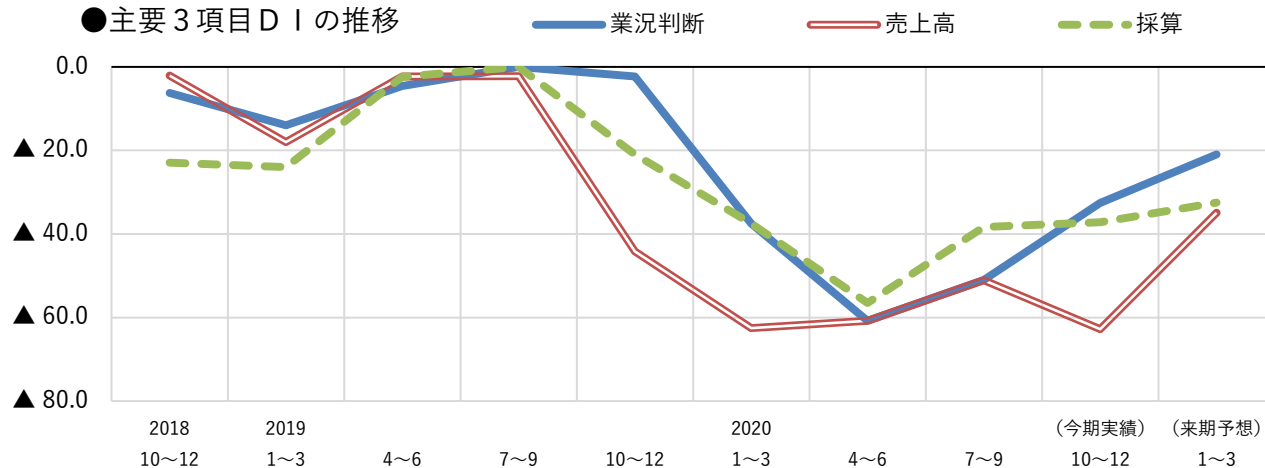


今期の採算DIは▲37.2で、前年同期と比べ16.3ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



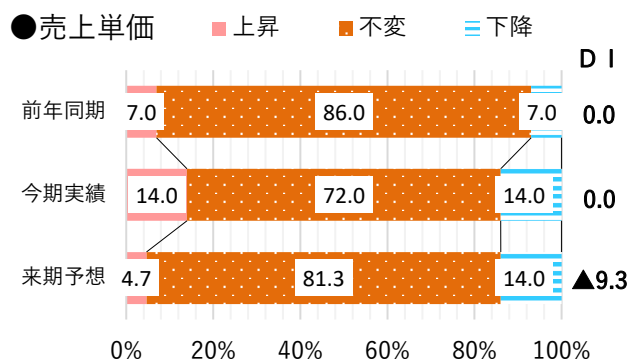
●主要3項目D Iの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

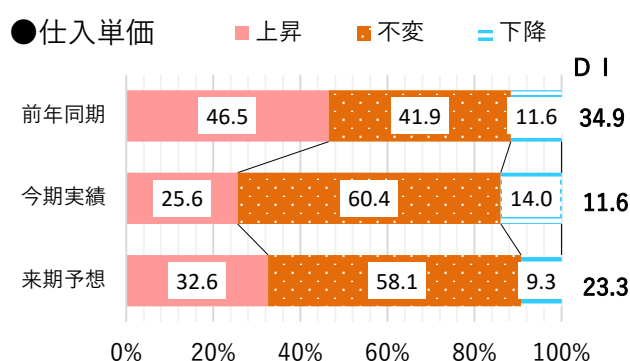
今期の売上単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、売上単価が下降すると予想しています。



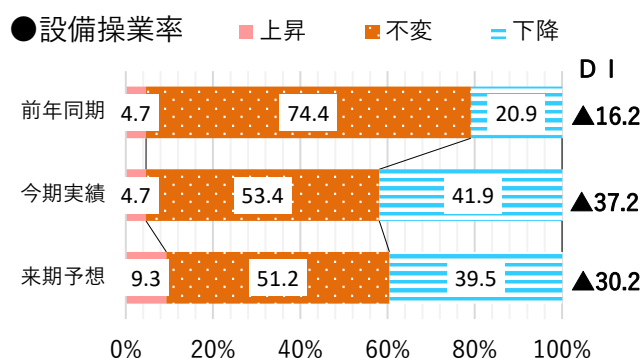
今期の仕入単価DIは11.6で、前年同期と比べ23.3ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲37.2で、前年同期と比べ21.0ポイント低下しました。

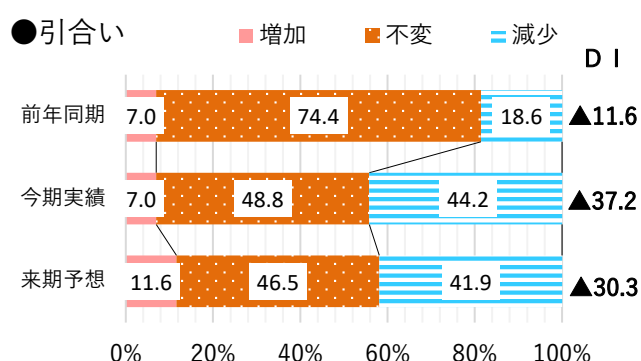
来期は、設備操業率の下降傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲37.2で、前年同期と比べ25.6ポイント低下しました。

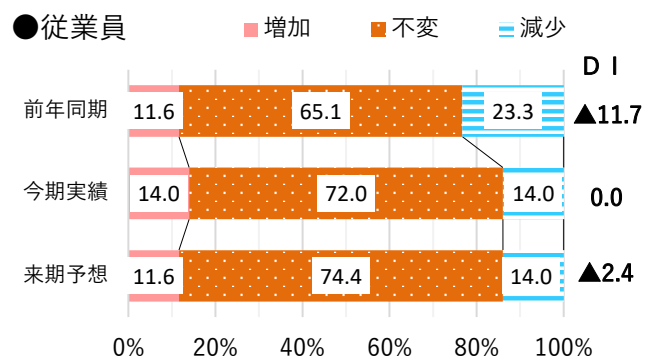
来期は、引合いの減少傾向が弱まると予想しています。



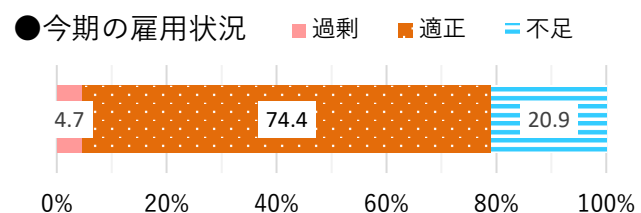
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数が減少すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.7%、適正であると回答した企業の割合は74.4%、不足していると回答した企業の割合は20.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の55.8%を占めています。

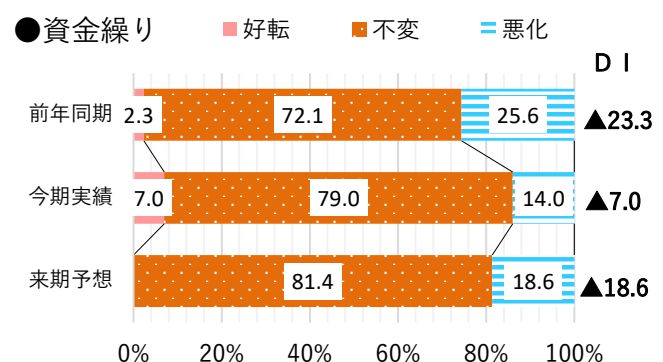
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	1
不変だった	過剰	2
	適正	24
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	3

資金繰り、設備投資

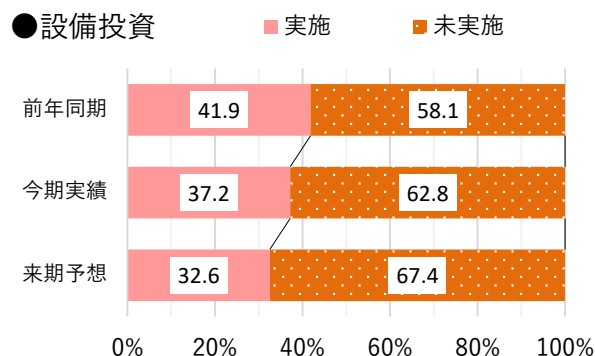
今期の資金繰りDIは▲7.0で、前年同期と比べ16.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



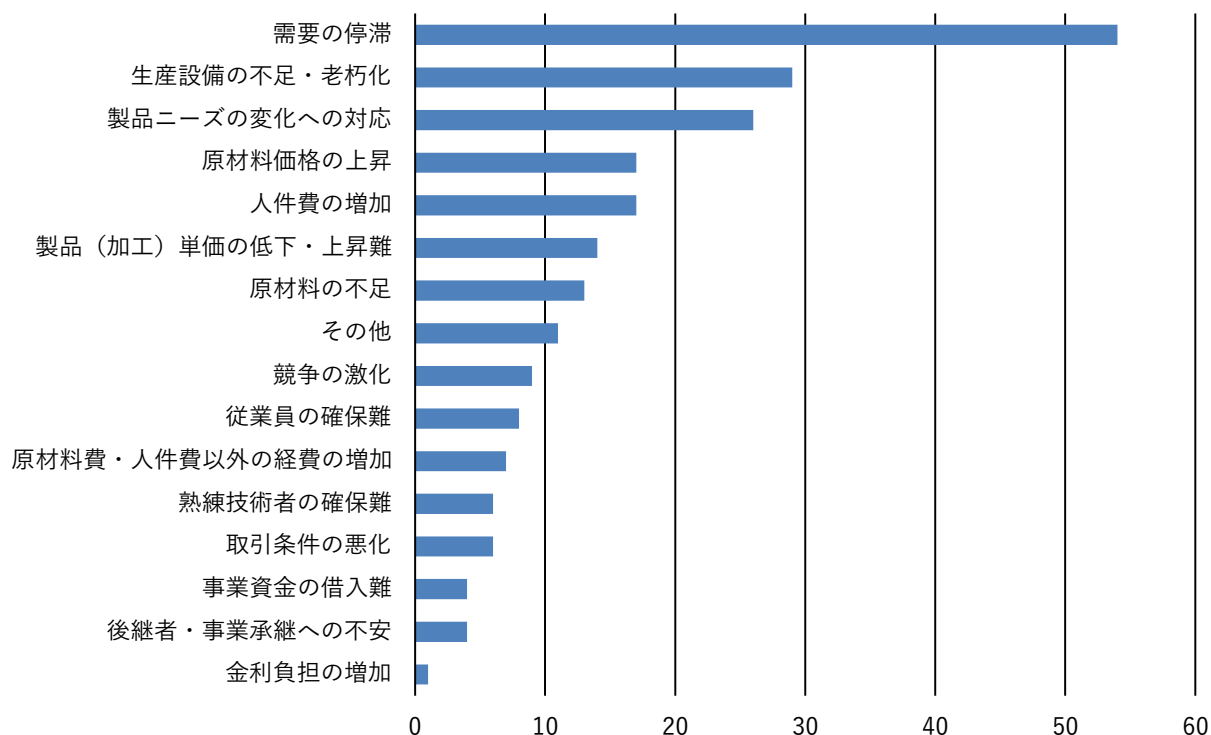
設備投資を実施した企業の割合は37.2%で、前年同期と比べ4.7%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は32.6%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「製品ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 工事計画の延期や見直しが出ており、足元の受注が無くなることによる売上の減少を予想していたが、その通りになった。前年度からの受注による売上はあるが、先行きが不安である。（金属製品）
- 建築業界への不況拡大を感じている。（金属製品）
- 道内需要に変化は無いが、道外需要が低下した。（金属製品）
- 新型コロナウイルスにより、売上が減少した。（金属製品）
- 4～9月と比較し、経済の動きが回復したため、売上が増加した。残業、接待、出張の経費が減少した。利益は前年並みである。（プラスチック）

- 大型案件の販売がずれ込んだため、売上が減少した。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの影響で、菓子や土産物関連の段ボール、紙容器の売上が減少した。青果物関連は、作況が良好なため売上が増加したが、加工賃が安いと、大幅な利益増加にはなっていない。（紙製品）
- 新型コロナウイルスの状況が不透明なため、不安を感じている。消費は落ち込んだ。（ゴム製品）
- 降雪量の減少により、主力商品の売上が減少した。（ゴム製品）
- 容器として使用していた缶が製造を終了したため。一部商品が製造できない状況にある。（油脂加工品）
- この時期の主力である鏡餅の受注が前年より5%程度減少した。減少分は他の商品の伸長によってある程度カバーしたが、全体の売上は前年同期比98%だった。消費に力強さが感じられず、パート人員の確保にも苦労している。（食料品）
- 新型コロナウイルスによって業務用製品の受注が減少し、売上が減少した。肉類の仕入単価が上昇した。良い人材を採用できている。（食料品）
- コロナ禍により売上が激減した。ホテルや居酒屋向けの業務用食材への影響が大きく、今後の見通しが立たない。（食料品）
- 例年通りの販売数を確保したが、原材料仕入単価が上昇したため、利益につながらなかった。（食料品）
- 主原料価格の高値安定と物産展の中止や縮小、土産品の販売不振により、採算が悪化した。（食料品）
- EC事業が好調だが、先行投資が大きく、利益に結び付くか不安を感じている。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響は小さく、例年と変わらない状況だった。（食料品）
- 世界的な主力原料の不足によって売上が減少し、採算が悪化した。（食料品）
- 回復の兆しがあったが、11月から再び発注量が減少している。（食料品）
- 新商品の発売により、前年並みの売上を確保できた。（飲料）
- 仕入価格は不変だった。人材を募集している。（飲料）

[来期の業況について]

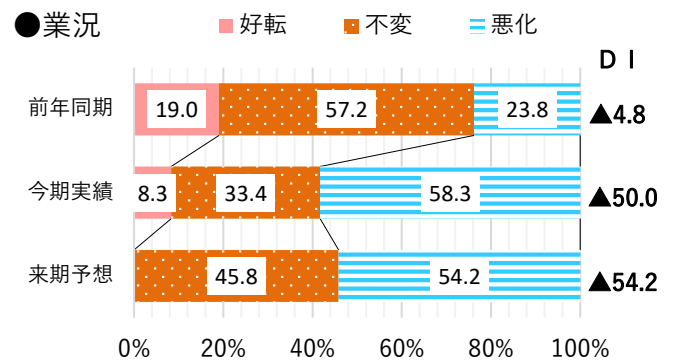
- 今期同様、市場の動きが鈍化すると予想する。業界外での消費低迷の影響が出始めており、コロナ禍の終息が見えてこない限り、状況に変化はないと思われる。（金属製品）
- 不況下で生き残るための方策を考えたい。（金属製品）
- 本州からの受注増加が見込まれる。（金属製品）
- 社内で新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が出た場合、稼働が難しくなる。（プラスチック）
- 新型コロナウイルスの終息が見込めない状況での予算作成に苦労するだろう。（プラスチック）
- 閑散期のため、例年同様に売上が大幅に落ち込むと思われる。新型コロナウイルスによる減収も続くと思われるが、人員削減等で対応する。（紙製品）
- 新型コロナウイルスにより、業況の好転は見込めない。現状維持を見込む。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルス次第で業況は大きく変わる。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの動向に左右される。（ゴム製品）
- 営業活動ができず、先行きは不透明である。（その他繊維製品）
- コロナ禍が続く状態でワクチンが完成しても、今年度はイベント等も無く、人の往来の制限等が続く状況下での売上回復は見込めない。（食料品）
- 先行きは全く見通せないが、引合いに力強さが無く、原材料費や諸経費の上昇が採算悪化の原因となるように思われる。（食料品）
- 輸入にしん、鮭等水産原料の漁獲量が大きく減少し、原材料不足による売上の減少を見込む。（食料品）
- 販売数は2019年度の9割程度を予測している。原材料仕入価格の好転は見込めない。（食料品）
- 原材料価格が従来に戻り、物産展が再開されることで採算は好転すると思われる。（食料品）
- 稼働率を引き上げ、利益確保を目指す。引き続き人材確保に取り組む。（食料品）
- 観光産業向けの出荷が不安定なため、量販店向けの販売に注力する。（食料品）
- 閑散期のため、売上の減少が見込まれる。（食料品）
- 引き続き、EC事業の拡大を図る。（食料品）
- 新型コロナウイルスの感染拡大が続けば、売上減少は必至である。（飲料）
- 8月以降の回復基調が続くと予想している。（飲料）

卸 売 業

業況、売上、採算

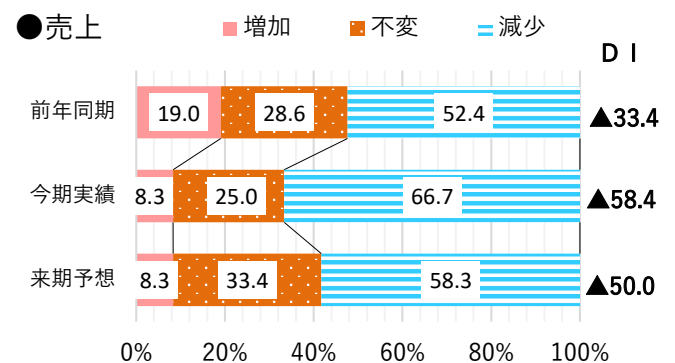
今期(2020.10～12)の業況判断DIは▲50.0で、前年同期(2019.10～12)と比べ45.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2021.1～3)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



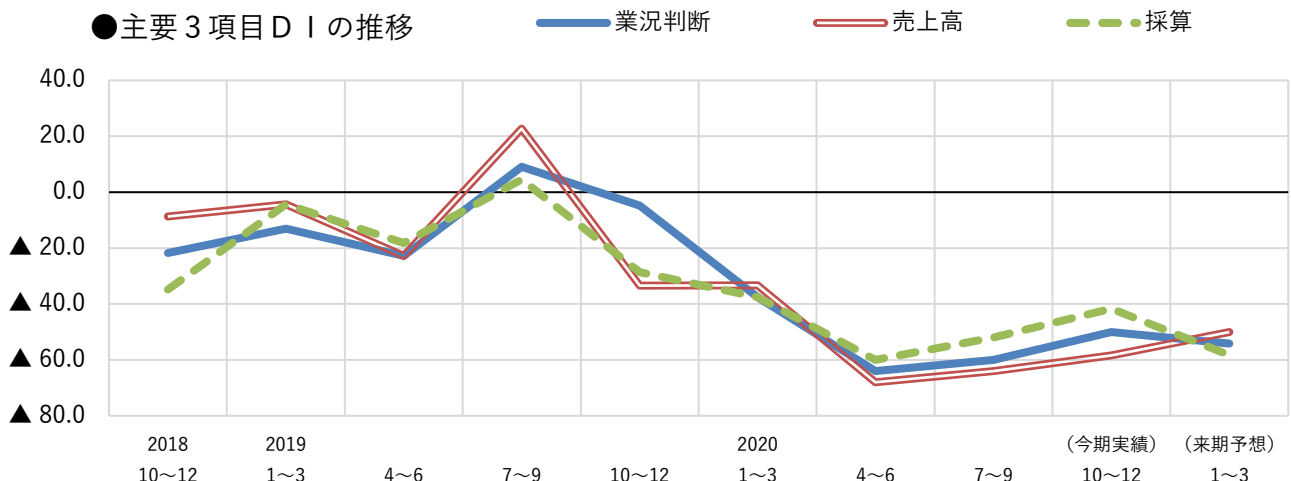
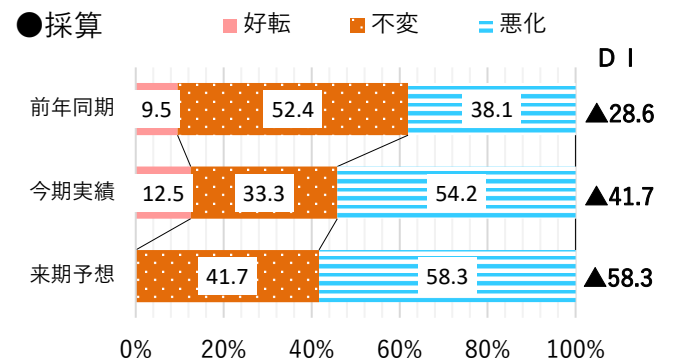
今期の売上DIは▲58.4で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲41.7で、前年同期と比べ13.1ポイント低下しました。

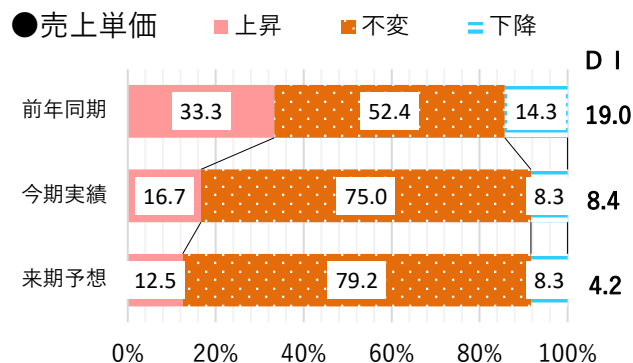
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



売上単価、商品仕入単価

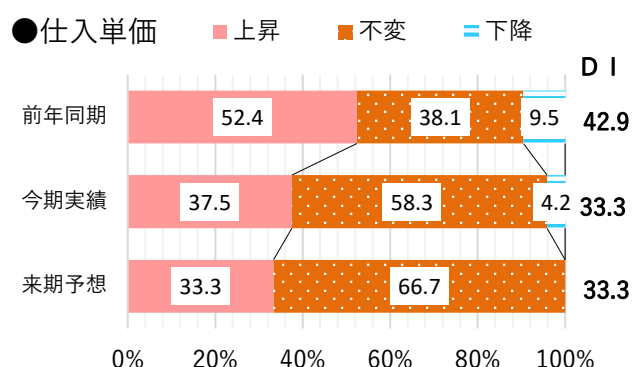
今期の売上単価DIは8.4で、前年同期と比べ10.6ポイント低下しました。

来期は、売上単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは33.3で、前年同期と比べ9.6ポイント低下しました。

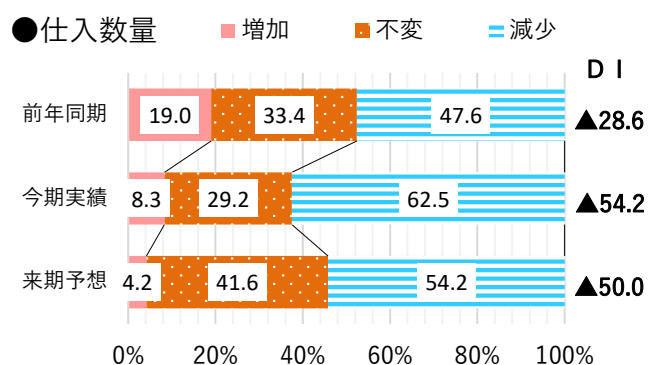
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

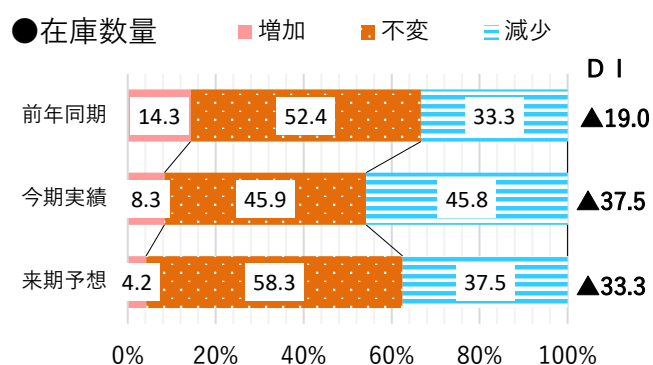
今期の仕入数量DIは▲54.2で、前年同期と比べ25.6ポイント低下しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲37.5で、前年同期と比べ18.5ポイント低下しました。

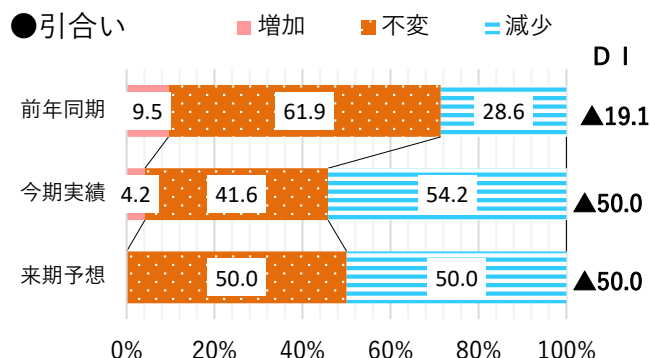
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲50.0で、前年同期と比べ30.9ポイント低下し、大幅に減少しました。

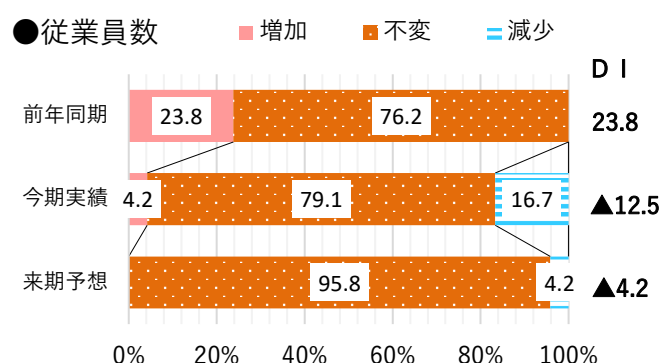
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



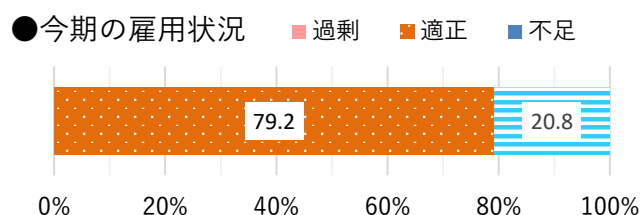
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲12.5で、前年同期と比べ36.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は79.2%、不足していると回答した企業の割合は20.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の70.8%を占めています。

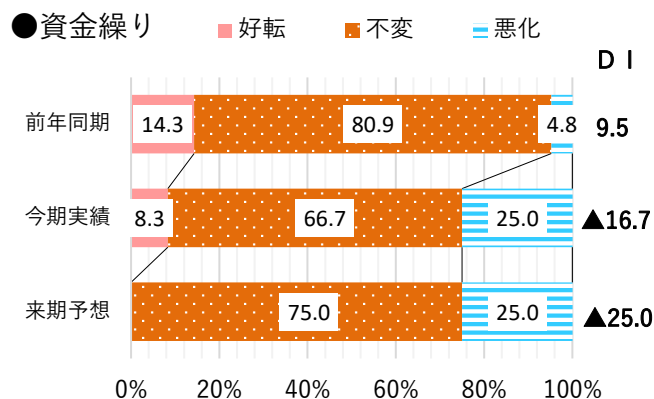
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「前年同期比で減少し、充足している」、「前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	17
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	2

資金繰り、設備投資

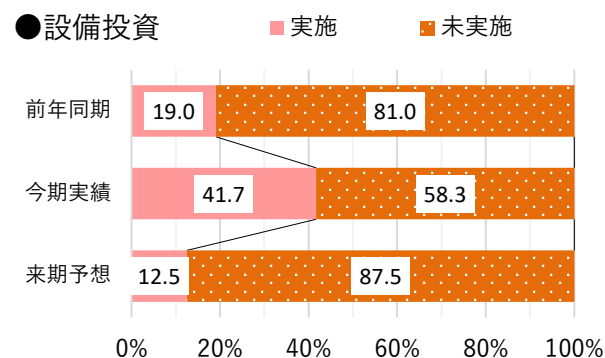
今期の資金繰りDIは▲16.7で、前年同期と比べ26.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



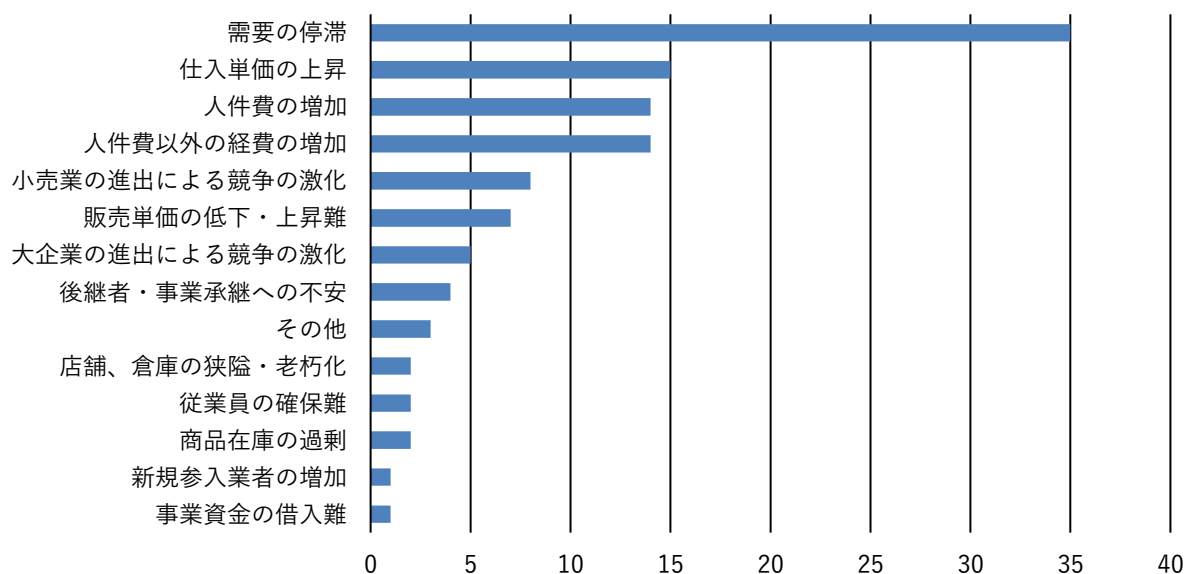
設備投資を実施した企業の割合は41.7%で、前年同期と比べ22.7%増加しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は12.5%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 訪問や対面による営業が難しい状況で、取引先の新規開拓ができず、業況が悪化した。一方で有能な人材確保の機会であるため、将来に向けた投資として採用数を増やしている。（電気機械器具卸売）
- コロナ禍で原油価格が下降し、売上が減少した。（石油卸売）
- 北海道新幹線工事、余市～共和間高規格道路建設工事関連の商材の売上が好調だった。（建築材料卸売）
- G o T oキャンペーンにより、人が動いたことで需要が回復傾向にあったが、急ブレーキがかかり、受注数が減少した。観光、飲食関連の企業は厳しい状況にある。（食料・飲料卸売）
- 前年同期比の売上は112.6%、収益は108.7%だった。（食料・飲料卸売）
- 10月の売上は増加したが、11月以降は減少した。（水産物卸売）
- 新型コロナウイルスにより、売上が減少した。（水産物卸売）
- 冬支度のため、冬用の部品や用品の売上が増加した。（自動車部品卸売）
- コロナ禍のため、売上が減少した。（包装資材卸売）
- 前年同期とほぼ変わらない売上で推移し、特に問題はなかった。（鉱物・金属材料卸売）
- 戸建ての改修工事が少なかった。現在は公共工事と後志管内への納品が主となっている。春から夏にかけての売上減少の影響を受けている。（塗料販売）

[来期の業況について]

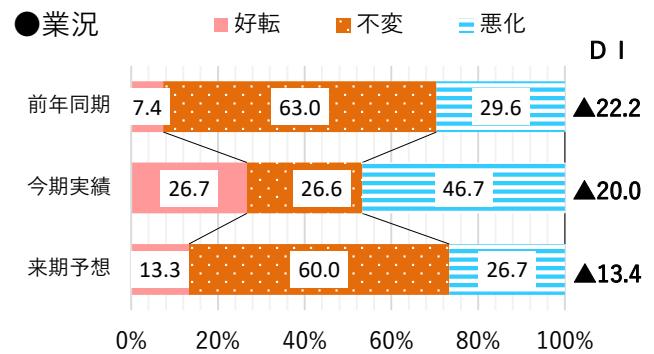
- 今の経済環境は、新型コロナウイルスの対策が進まない限り好転せず、業績も悪化が予想される。今は耐えながら、会社の改革を進め、卸売業と並行して技術部門の強化を図る。（電気機械器具卸売）
- 原油価格の上昇による売上の増加を見込む。（石油卸売）
- 小樽エリアでの北海道新幹線工事が本格的に始まるため、工事関連の商材の動きが活発になると思われる。（建築材料卸売）
- 需要の停滞が続くと思われる。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルスによる売上不振が続くと思われる。（水産物卸売）
- 全く見通しが立たない。（水産物卸売）
- 積雪量が多ければ、除排雪や事故車両の修理、板金部品の売上が増加する。車検業務は減少を見込む。（自動車部品卸売）
- 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか分からず、見通しが立たない。（包装資材卸売）
- 新規物件が少なく、予想は難しいが、例年閑散期のため、深刻には考えていない。（建築材料卸売）
- 新型コロナウイルス終息の兆しが見えるまで、厳しい状況が続くだろう。（塗料販売）

小 売 業

業況、売上、採算

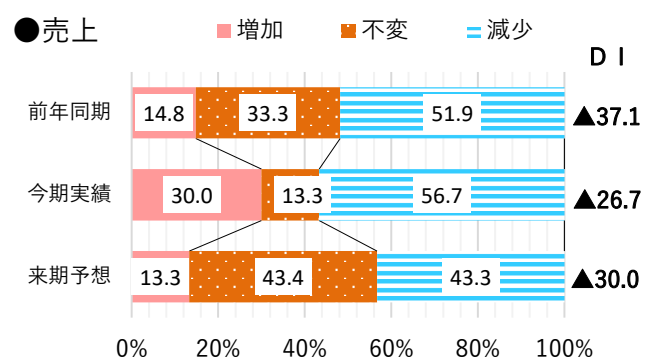
今期(2020.10~12)の業況判断DIは▲20.0で、前年同期(2019.10~12)と比べ2.2ポイント上昇しました。

来期(2021.1~3)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



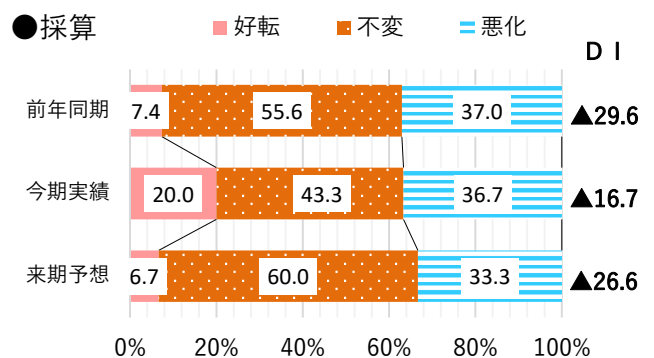
今期の売上高DIは▲26.7で、前年同期と比べ10.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

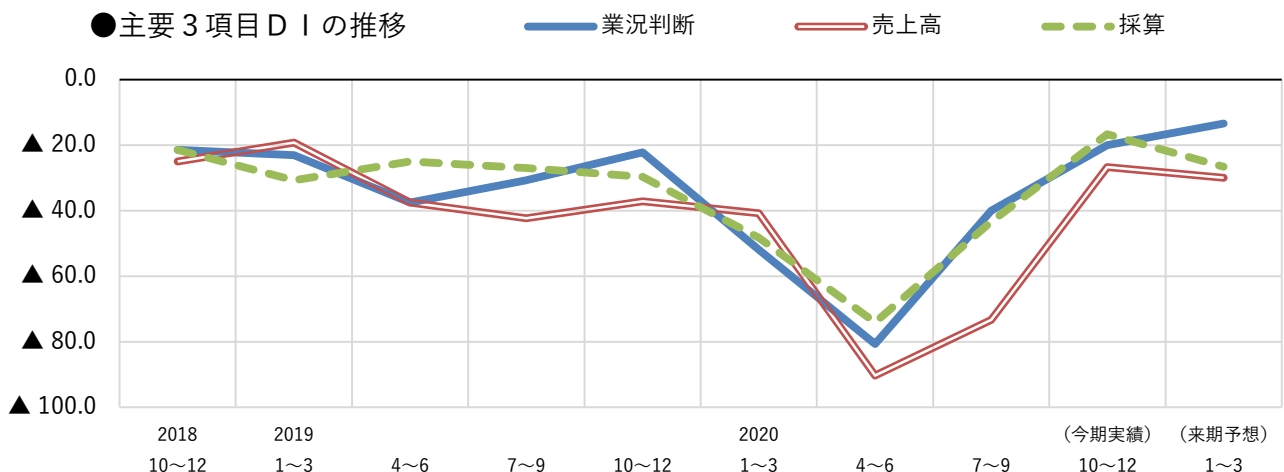


今期の採算DIは▲16.7で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



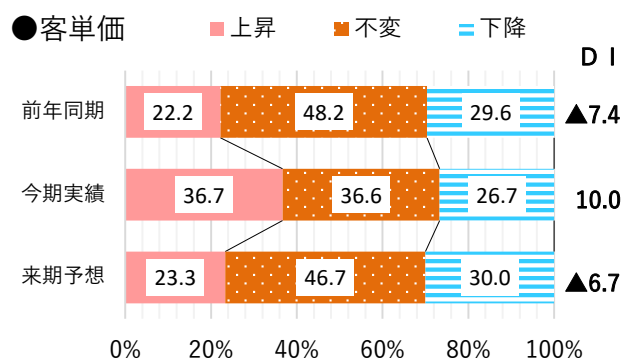
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

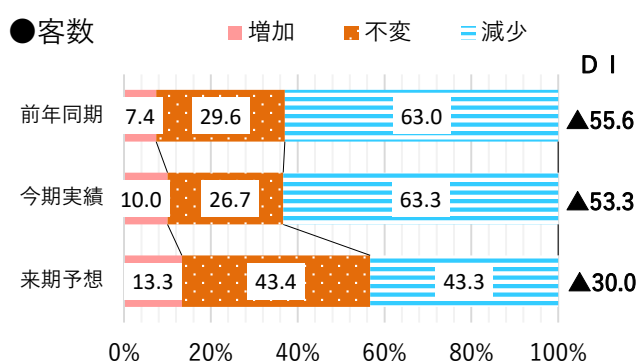
今期の客単価DIは10.0で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価が下降に転じると予想しています。



今期の客数DIは▲53.3で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

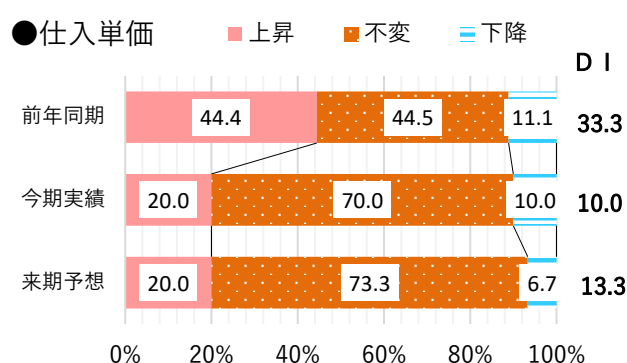
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

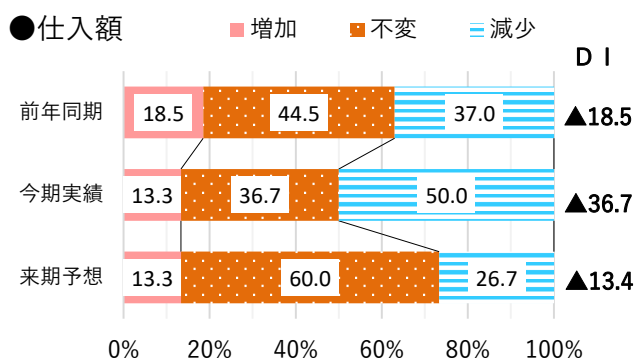
今期の仕入単価DIは10.0で、前年同期と比べ23.3ポイント低下しました。

来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



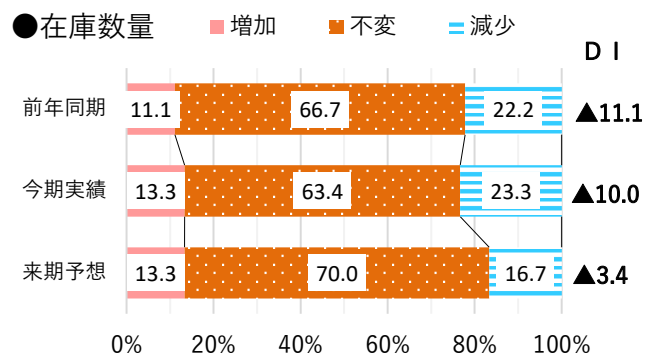
今期の仕入額DIは▲36.7で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

来期は、仕入額の減少傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲10.0で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

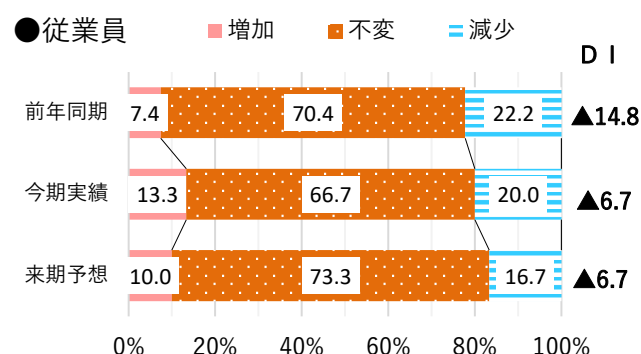
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



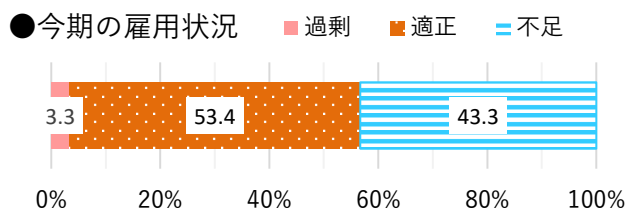
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.7で、前年同期と比べ8.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.3%、適正であると回答した企業の割合は53.4%、不足していると回答した企業の割合は43.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の40.0%を占めています。

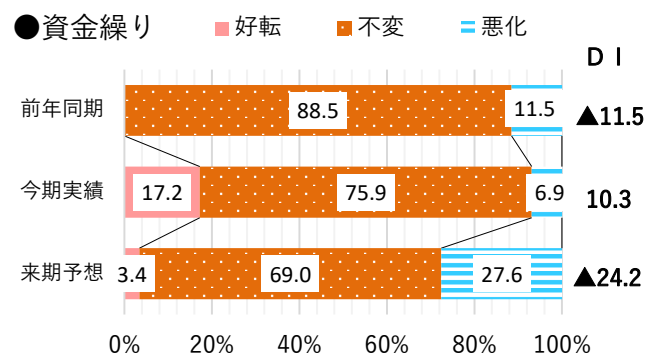
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	8
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	3

資金繰り、設備投資

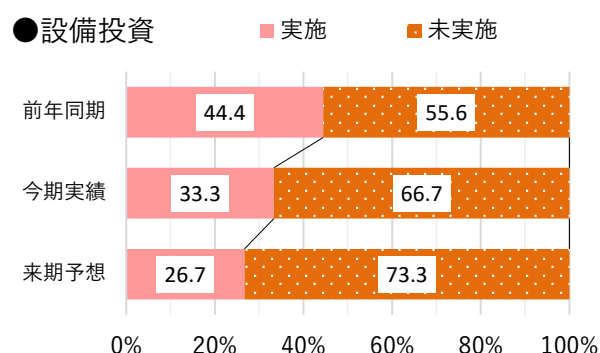
今期の資金繰りDIは10.3で、前年同期と比べ21.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りが大幅な悪化に転じると予想しています。



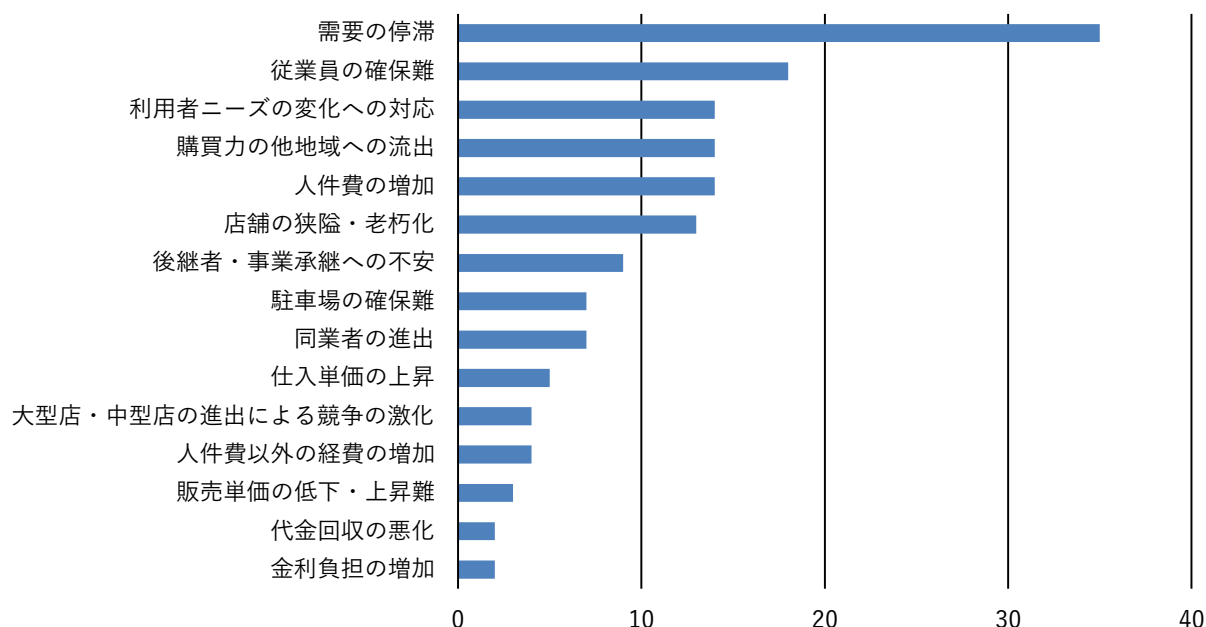
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ11.1%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、「販売設備」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）2位が「土地」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスにより、飲食店や観光関連施設への販売額が低迷した。融資や補助金で一時的に業況が好転したが、今後は不透明である。ネット販売は少額ながら伸長した。（食料品小売）
- 売上額は、巣ごもり需要によってプラスになっている。（食肉小売）
- 新型コロナウイルスが一時的に落ち着いた時期は、客数が増加した。（菓子製造小売）
- DMや、札幌市民に向けた広告による販促に取り組んだ。メーカーの見切り品を大量に買い入れた。（衣服・身の回り品小売）
- 新型コロナウイルスの影響か、客数が伸びなかった。印章の売上が好調だった。（衣服・身の回り品小売）
- 新型コロナウイルスによる休業や時短営業のため、売上が減少した。（衣服・身の回り品小売）
- 売上は減少したが、経費圧縮により業況が好転した。正社員採用希望者が多い。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスの影響が一段落し、安定した経営ができた。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスの影響は無い。（自動車小売）
- 多少の持ち直しがあったと判断するが、新型コロナウイルス流行の第3波により、先の見えない状況に戻ってしまった。年末年始は小売業にとって最大商戦の時期だが、例年とは異なるアプローチが必要になると考えている。（大型店）
- 客数の減少に伴い、売上が減少した。従業員の採用を控えている。（大型店）
- 前期と同様の状況だった。採用についての問合せが増加している。（大型店）
- 客単価と売上は増加したが、客数は不変だった。プレミアム付商品券、特に小樽市内に本社、本店がある店舗でのみ使用できる地域応援券は地元企業としては大変ありがたく、利用客が多かった。このような取組はまた実施してほしい。（ドラッグストア）
- 借入金が増加した。税、社会保険料が負担となっている。（花・植木小売）
- 雪が少なく、除雪用品の売上が減少した。（ホームセンター）
- 新型コロナウイルスの影響で、売上の動きを把握しづらい。（コンビニ）

[来期の業況について]

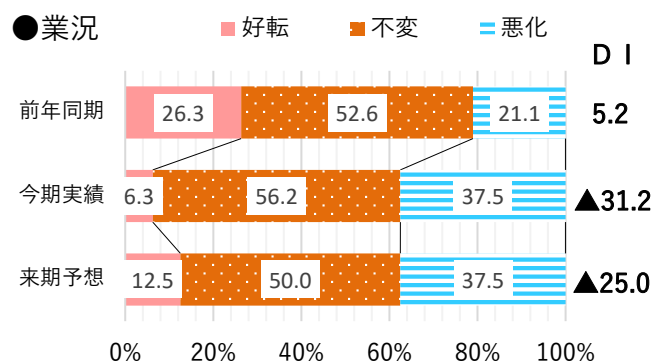
- 新型コロナウイルスの終息が見えず、不透明である。最低でも今期と同水準の業況を維持し、新規事業によってわずかでも売上を伸ばしたい。既存の得意先、取引先の廃業や閉店が懸念される。（食料品小売）
- 新型コロナウイルスの動向に左右されるが、好転の可能性もあると思われる。（食肉小売）
- 新型コロナウイルスの感染者数が増加すれば、不安を感じながらの経営になるだろう。（菓子製造小売）
- 新型コロナウイルスのステージが引き上げられると、人出が極端に減るため、売上は減少するだろう。長期借入の返済に苦労すると思われる。（衣服・身の回り品小売）
- 新型コロナウイルスの終息による、経済活動の正常化に期待する。（衣服・身の回り品小売）
- 全体的に急激な悪化が予想される。（衣服・身の回り品小売）
- 2名の採用を予定しており、うち1名は即戦力である。初売りによる売上の増加を目指す、市場は厳しい状況だろう。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスの影響が不透明だが、投資により利益の増加を図る。（自動車小売）
- 客単価が少しずつ下降すると思われる。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスが落ち着かなければ、悪化は目に見えている。防疫体制は方法が限られてきており、更なる有効な手段も見つけにくい、継続した取り組みが必要だと考えている。（大型店）
- 新型コロナウイルスの終息の目途が立たなければ、今期同様の業況が予想される。（大型店）
- 新型コロナウイルスの影響の見通しは立たない。業況の悪化を予想する。（ドラッグストア）
- 借入金の返済が負担となるため、苦しい状況が予想される。（花・植木小売）
- 新型コロナウイルスの終息を願う。（コンビニ）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

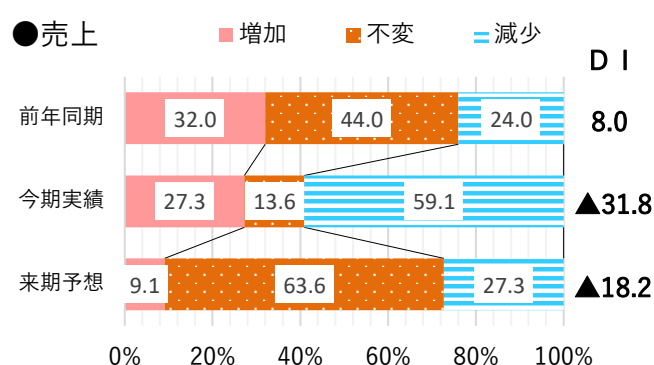
今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲31.2で、前年同期（2019.10～12）と比べ36.4ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



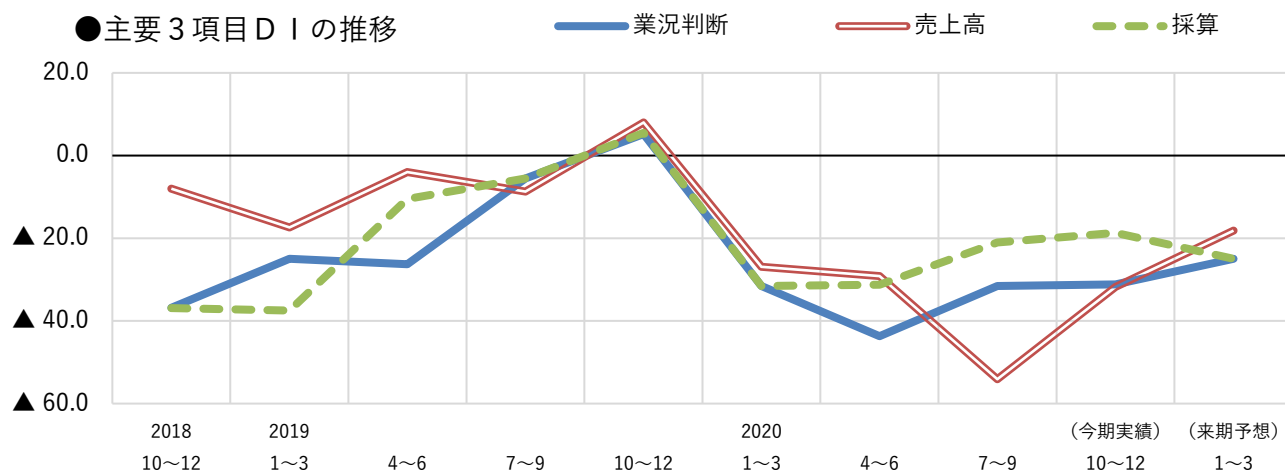
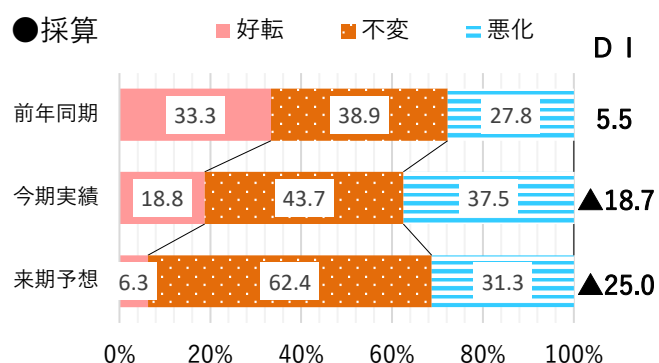
今期の売上高DIは▲31.8で、前年同期と比べ39.8ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、売上の悪化傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲18.7で、前年同期と比べ24.2ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

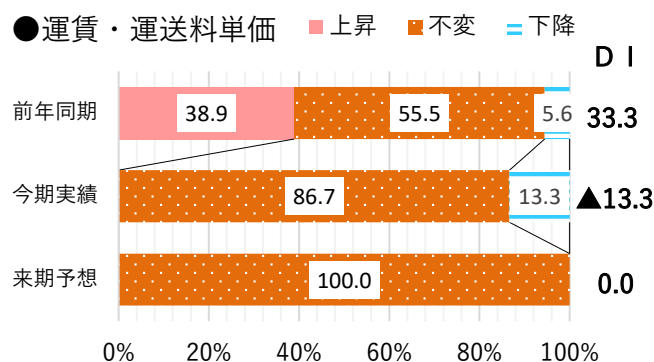
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

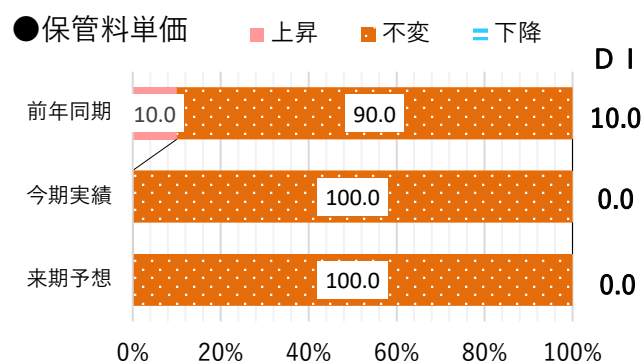
今期の運賃・運送料単価DIは▲13.3で、前年同期と比べ46.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価に変化はないと予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ10.0ポイント低下しました。

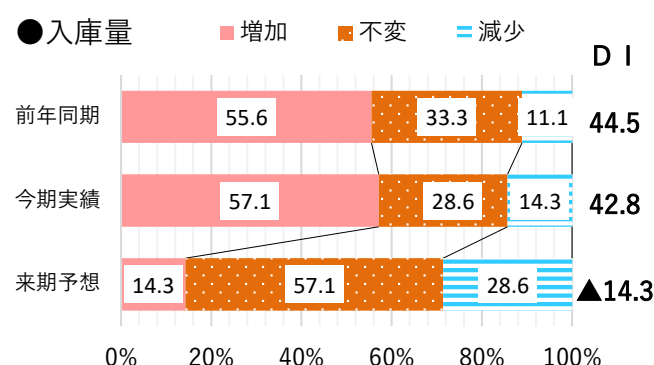
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

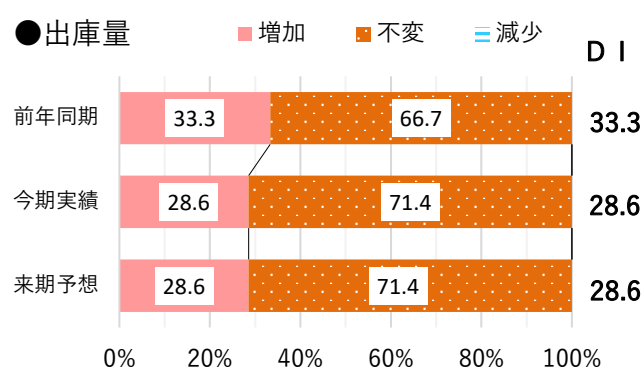
今期の入庫量DIは42.8で、前年同期と比べ1.7ポイント低下しました。

来期は、入庫量が減少に転じると予想しています。



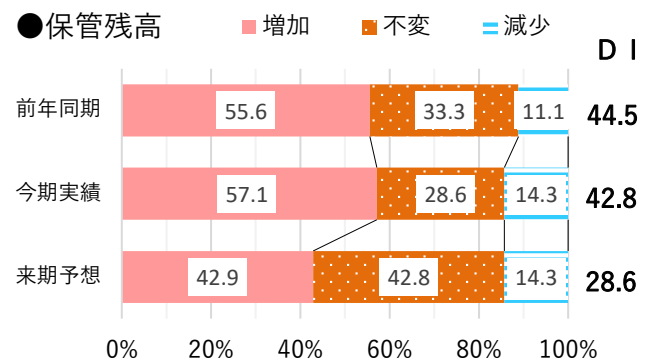
今期の出庫量DIは28.6で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期は、出庫量に変化はないと予想しています。



今期の保管残高DIは42.8で、前年同期と比べ1.7ポイント低下しました。

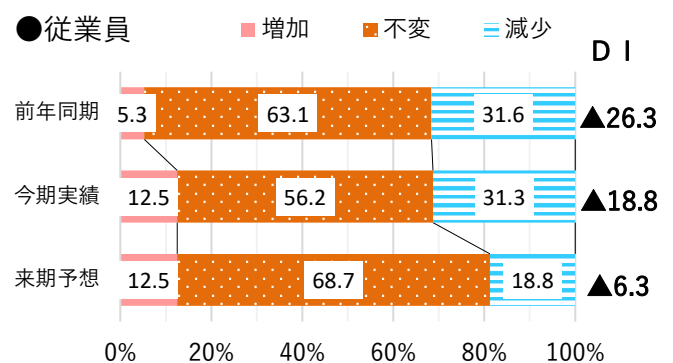
来期は、保管残高の増加傾向が弱まると予想しています。



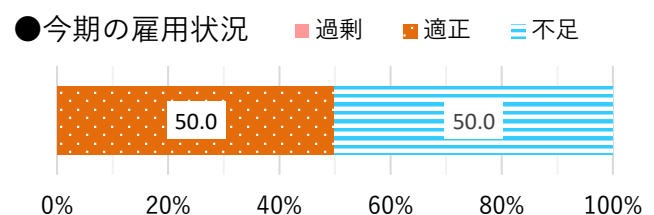
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲18.8で、前年同期と比べ7.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の37.5%を占めています。

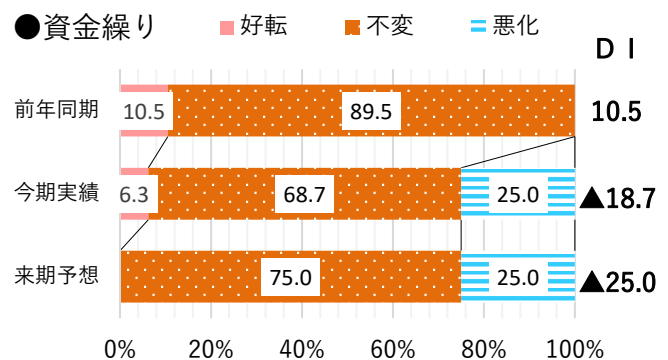
次いで多かったのは「従業員数は前年同期で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	3

資金繰り、設備投資

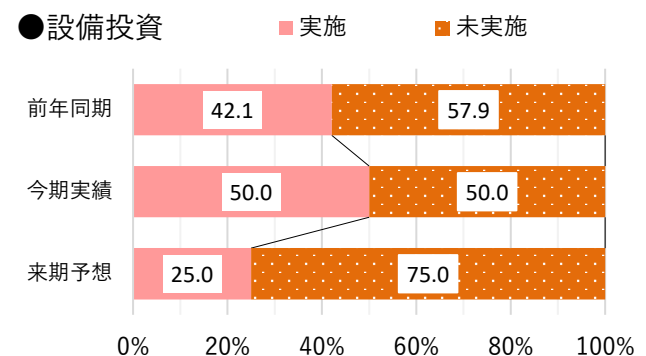
今期の資金繰りDIは▲18.7で、前年同期と比べ29.2ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



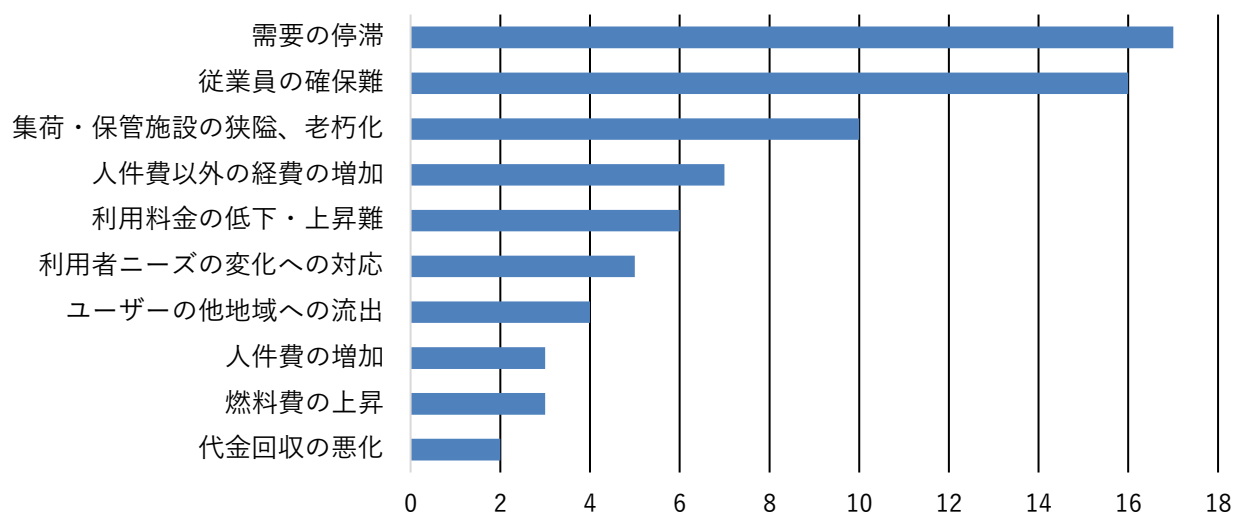
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ7.9ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、3位が「集荷・保管施設の狭隘、老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 1年を通じて最も稼働が多い時期だが、例年と比べて業況は良くない。1人でも感染者が出ると業務の大半が止まるため、新型コロナウイルスの感染に注意する。（道路貨物運送）
- 内麦や融雪剤の保管量が増加し、倉庫収入が増加した。乗務員が不足している。（道路貨物運送）
- 品種によって差はあるが、建設材料関係を中心に運搬量が増加した。（道路貨物運送）
- 燃料費が低く抑えられていた。フェリーの輸送料金も低下した。（道路貨物運送）
- 販売不振のため、荷主から運賃の値下げを要求された。（道路貨物運送）
- 新型コロナウイルスによって営業収入が減少した。燃料費は例年通りに推移した。（道路旅客運送）
- 売上が減少した。従業員数は大幅に減少した。（道路旅客運送）
- 新型コロナウイルスの影響により、旅客と貨物の減少が続いている。（水運）
- インバウンドの減少に伴い、飲料等の輸送量が減少した。（港湾運送）
- 総売上が増加し、業況が好転した。（倉庫）
- 入庫量が減少した。（倉庫）

[来期の業況について]

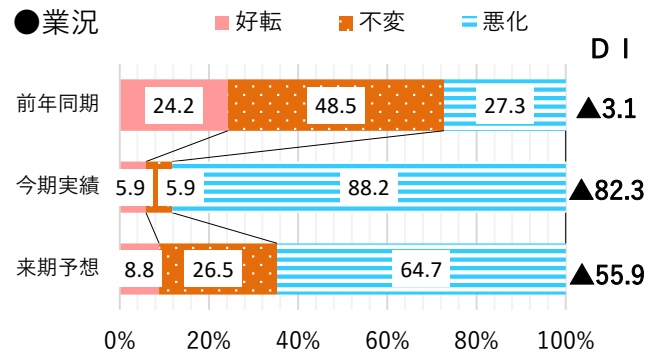
- 除雪の単価を引き上げられず、業務量が増加した場合、業況が悪化するだろう。（道路貨物運送）
- 軽油価格の上昇傾向が気になりだが、前年並みの業況を見込んでいる。（道路貨物運送）
- 今期同様に、燃料費とフェリーの輸送料金は安いと思われる。（道路貨物運送）
- 倉庫収入の増加傾向と人材不足が続くと思われる。（道路貨物運送）
- 市内でのクラスター発生やG o T oキャンペーンの停止など、消費マインドの上昇は期待できない。営業収入や客単価の回復も見込めない。（道路旅客運送）
- 新型コロナウイルスによる業況の悪化が続く。（水運）
- 入出庫量の減少が予想される。（倉庫）

観光業

業況、売上、採算

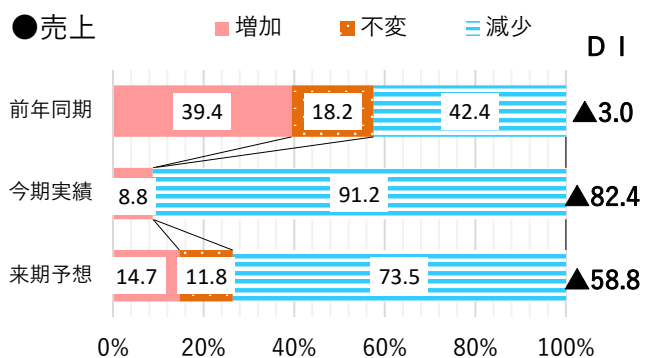
今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲82.3で、前年同期(2019.10～12)と比べ79.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



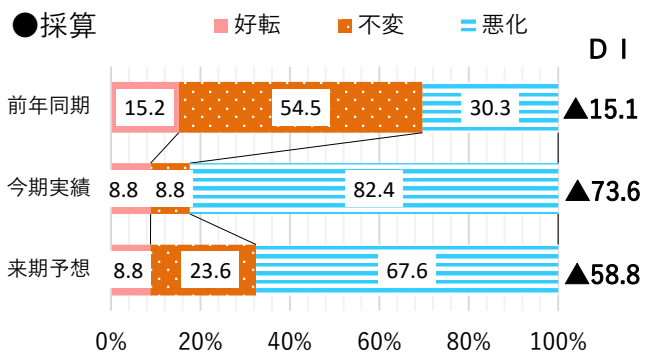
今期の売上DIは▲82.4で、前年同期と比べ79.4ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

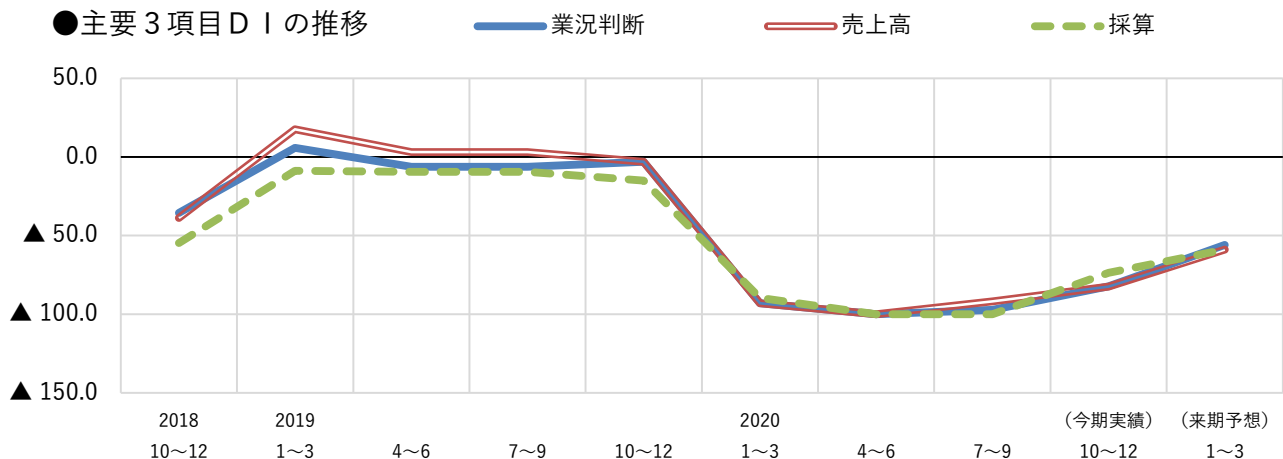


今期の採算DIは▲73.6で、前年同期と比べ58.5ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



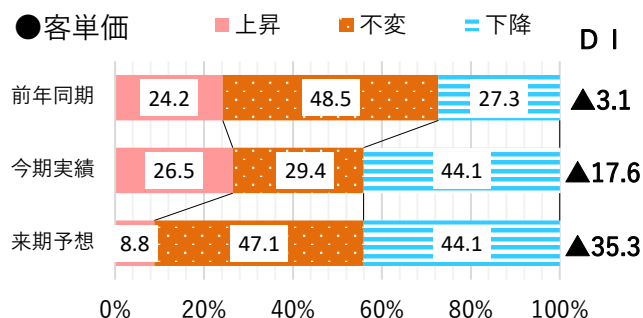
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

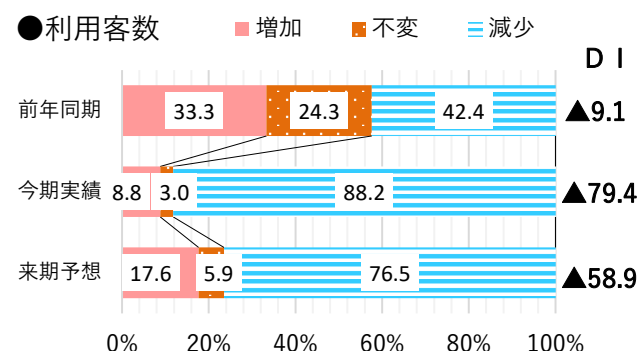
今期の客単価DIは▲17.6で、前年同期と比べ14.5ポイント低下しました。

来期は、客単価の下降傾向が続くと予想しています。



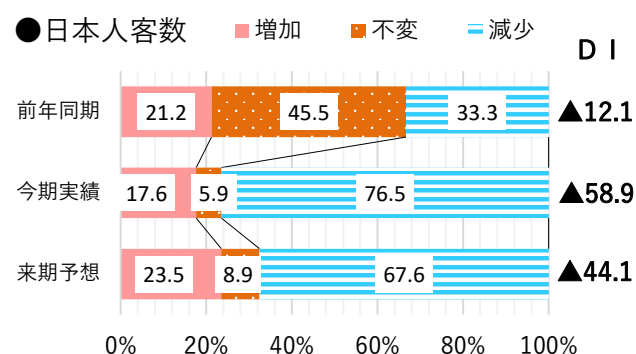
今期の利用客数DIは▲79.4で、前年同期と比べ70.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



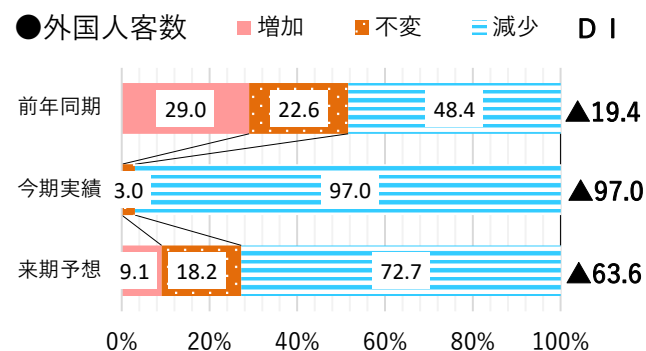
今期の日本人客数DIは▲58.9で、前年同期と比べ46.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、日本人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲97.0で、前年同期と比べ77.6ポイント低下し、大幅に減少しました。

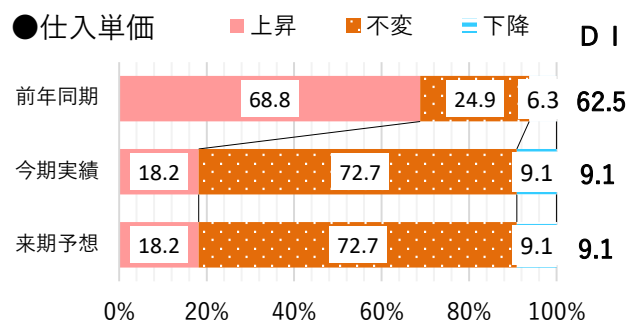
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは9.1で、前年同期と比べ53.4ポイント低下し、大幅に下降しました。

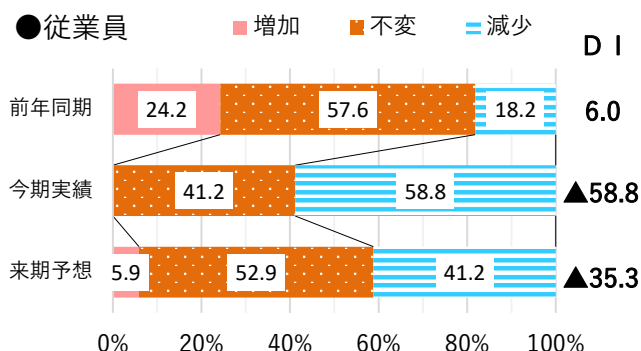
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



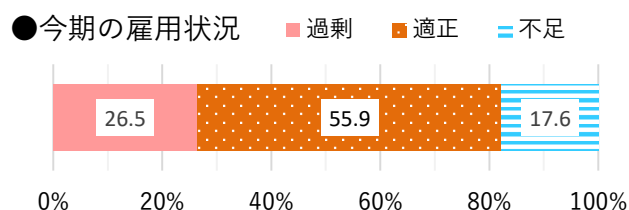
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲58.8で、前年同期と比べ64.8ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は26.5%、適正であると回答した企業の割合は55.9%、不足していると回答した企業の割合は17.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答で、観光業全体の29.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	4
	適正	9
	不足	1
減少した	過剰	5
	適正	10
	不足	5

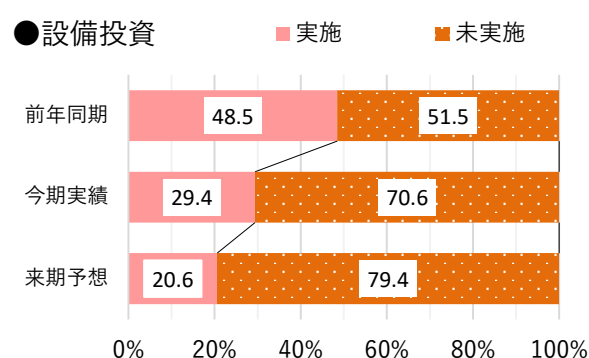
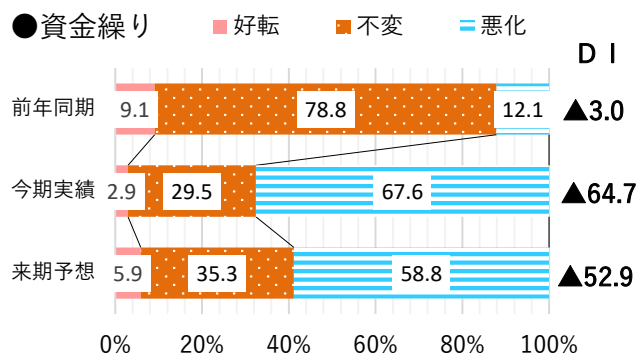
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲64.7で、前年同期と比べ61.7ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は29.4%で、前年同期と比べて19.1%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は20.6%で、減少を予想しています。

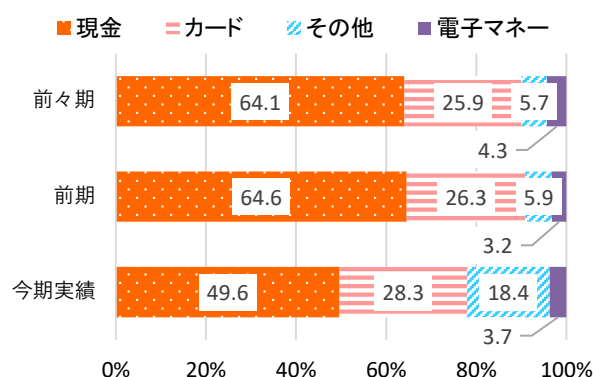


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で49.6%、2位がカードで28.3%、3位がその他で18.4%、4位が電子マネーで3.7%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToトラベル地域共通クーポン券、掛売り、旅行代理店からの銀行振込、ポイントの利用、ギフト券、割引券です。

●今期利用客の決済方法(%)

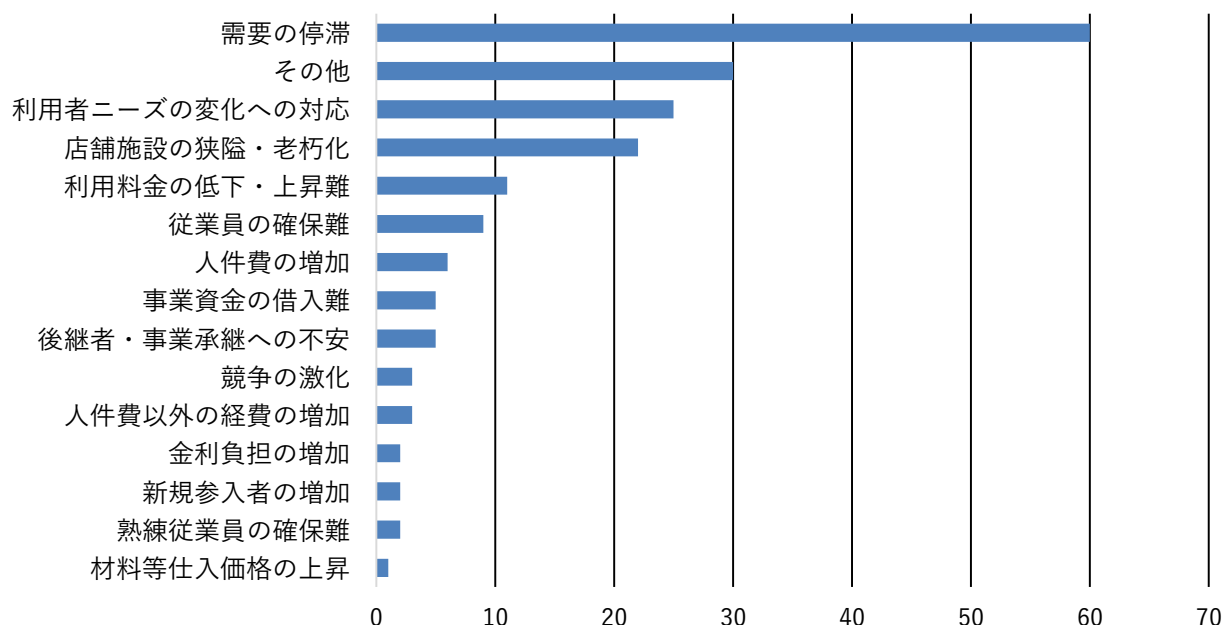


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は66.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- G o T o キャンペーンによって国内客が増加し、業況が好転した。リピーターの利用も多く、顧客との信頼関係や、コロナ禍において市街地から離れた場所に立地している安心感が影響したと思う。(ホテル)
- 利用客に占めるインバウンドの割合は約30%なので、国内客の回復に期待するが、G o T o キャンペーンが停止したため、年末は厳しい状況である。(ホテル)
- G o T o キャンペーン等の利用で日本人客数が増加したが、新型コロナウイルスの第3波によって再び減少傾向にある。(ホテル)
- G o T o キャンペーンにより、10月の昨年同月比客室稼働率は70%まで回復したが、11～12月は鈍化している。(ホテル)
- 企業の旅行や修学旅行の予約のキャンセルや、仕入価格の高騰により業況が悪化した。(ホテル)
- インバウンドの利用が減少した。(ホテル)
- G o T o キャンペーンや新型コロナウイルス感染状況の変化によって予約状況の変動があったが、全体として売上は減少し、仕入価格が上昇した。人員配置に悩まされた。(コテージ・ペンション)
- G o T o キャンペーンにより売上が増加した。(コテージ・ペンション)
- 新型コロナウイルスによる観光客の減少が続いている。前期、前々期比で国内客は回復しつつあるが、外国人客がゼロなので、売上が減少しており、業況の悪化は甚大である。低利の融資で資金を調達できたので、現状の資金繰りは何とかなっているが、先行きは不透明のままである。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で低迷していた物販事業の対前年比売上は、10月が110%、11月が90%まで回復した。国内客による購買が中心だった。(土産品)
- インバウンドの来店はほぼ無かった。11月から新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、回復しかけていた観光客は減少した。(土産品)
- 10月は道内の中学生、高校生が修学旅行で小樽に来ていた。(土産品)
- G o T o キャンペーンによって、売上はやや回復した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの終息まで厳しい状況が続く。(土産品)

- 新型コロナウイルスにより、客数が減少した。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響が大きい。（土産品）
- 新型コロナウイルス第3波のため、11月の下旬から状況が悪化した。G o T oキャンペーンによって売上と客単価が大幅に上昇したが、12月以降は自粛傾向が強まり、人出が減った。金券による決済が中心だったため、現金はほとんどない状況である。（飲食店）
- 10、11月はG o T oキャンペーンにより業況が好転したが、12月は新型コロナウイルスの感染拡大により再度悪化した。（飲食店）
- 団体客の利用や会食が全てキャンセルとなり、経営難に陥っている。（飲食店）
- 新型コロナウイルスにより、観光客が減少した。（飲食店）
- インバウンドの利用が無く、G o T oキャンペーンが停止したため、全体的に売上が低迷している。道外企業は出張を自粛しており、毎日利用があるユーザーも利用回数を減らしている。（レンタカー）
- 客数は対前期比で約11%の減少だが、対前年同期比では約40%減少しており、コロナ禍の影響が甚大である。（水運業）
- 新型コロナウイルスにより、観光船、駐車場ともに利用客数は減少している。（船舶賃渡業）
- 新型コロナウイルスにより、国内外の旅行客の減少が続いている。（娯楽業）
- 冬期のため動きが少なかった。（娯楽業）

[来期の業況について]

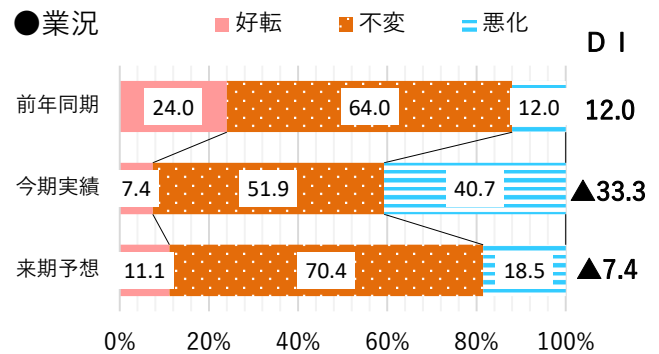
- 寒冷地での新型コロナウイルスの感染拡大傾向がメディアで指摘されているため、道外客の減少が予想される。外国人客の回復は見込めず、イベントの中止も予想されるため、業況は厳しいだろう。（ホテル）
- G o T oキャンペーンが1月末までの予定のため、新規の予約が無い状況である。2月以降の実施が決まれば、対前年同期比60%程度の売上は見込めるかもしれない。（ホテル）
- 助成金や補助金による支援はいつまで続くのか、不安を感じている。新型コロナウイルスが収束しなければ、業況回復の目処は立たない。（ホテル）
- 新型コロナウイルスにより、見通しが立たない。昨年同期比の売上は大幅な減少を見込む。（ホテル）
- 11月後半からキャンセルが増加しており、業況は悪化すると思われる。（ホテル）
- インバウンドの減少が続くと思われる。（ホテル）
- G o T oキャンペーンの停止、新型コロナウイルスの感染拡大、インバウンドの減少による売上の減少を見込む。（コテージ・ペンション）
- 業況は新型コロナウイルスの動向に左右される。（コテージ・ペンション）
- 本来であれば外国人客の増加が期待される時期であるが、さっぽろ雪まつり等各種イベントが中止、縮小されるため、日本人客さえ期待できない。ネット販売等の強化で、少しでも売上を増やしたい。9月から半年ほど経営不振が続くと見積もっており、金融機関と相談し、資金を厚めに調達している。（土産品）
- さっぽろ雪まつりなど、各種イベントの中止により売上が減少すると思われる。（土産品）
- 現状が劇的に回復する見込みが無いため、業況は変わらないだろう。（土産品）
- 新型コロナウイルスのワクチン開発に期待する。（土産品）
- 客数の減少が続き、売上が減少すると思われる。（土産品）
- 新型コロナウイルスの状況は改善していると思われるが、周辺の店舗の休業が増加している状況で、いつまで持ちこたえられるか不安である。資金力のない企業にとって厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息に期待が持てなければ、状況は変化しないと思われる。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息と観光客数の回復まで、厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
- コロナ禍の終息に向けて、国の施策や補助に期待する。（飲食店）
- インバウンドが増加し、外出自粛が緩和されなければ、来期の売上も減少すると思われる。（レンタカー）
- 閑散期であり、G o T oキャンペーンが停止されたことから、業況は相当悪化すると思われる。（水産業）
- 好転が見込まれるが、状況の変化に対応できるか不安である。（船舶賃渡業）
- 冬期間のスキー客による利用が見込まれるため、今期の業況を維持できるとと思われる。（娯楽業）
- 新型コロナウイルスの影響が不透明の為、判断は難しい。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

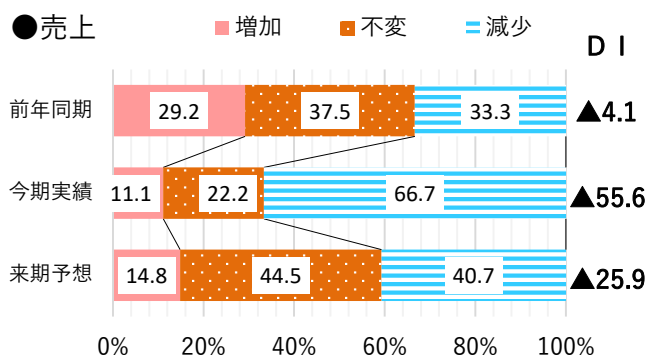
今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲33.3で、前年同期(2019.10～12)と比べ45.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



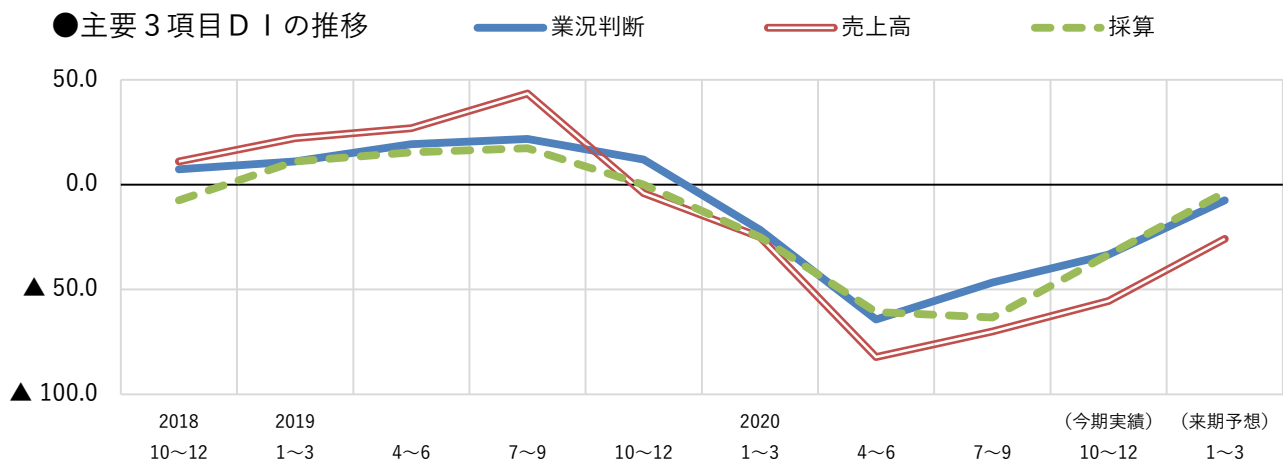
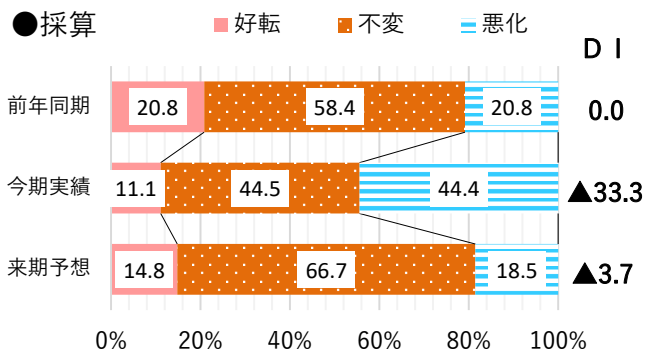
今期の売上高DIは▲55.6で、前年同期と比べ51.5ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、売上の悪化傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲33.3で、前年同期と比べ33.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

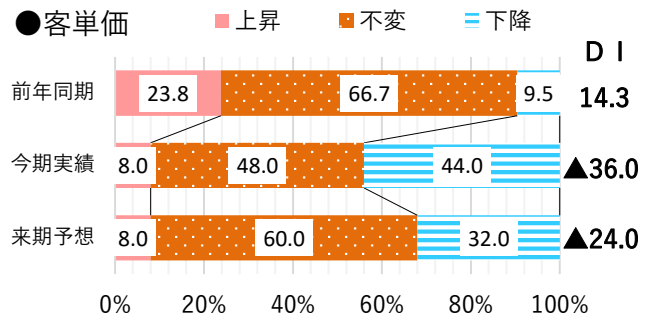
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

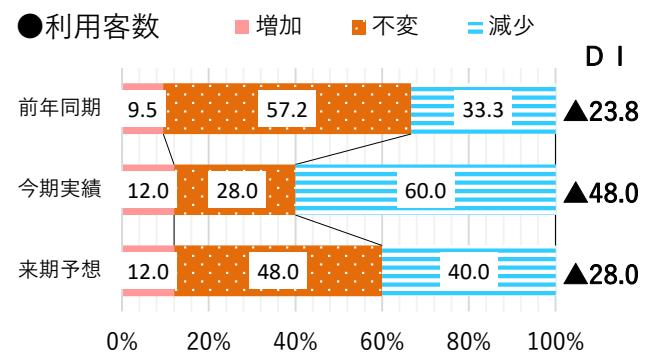
今期の客単価DIは▲36.0で、前年同期と比べ50.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



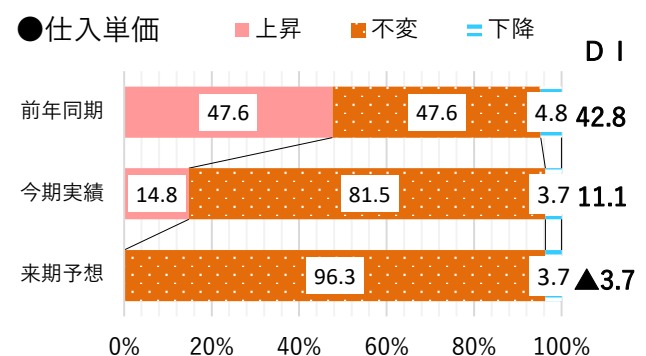
今期の利用客数DIは▲48.0で、前年同期と比べ24.2ポイント低下しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは11.1で、前年同期と比べ31.7ポイント低下し、大幅に下降しました。

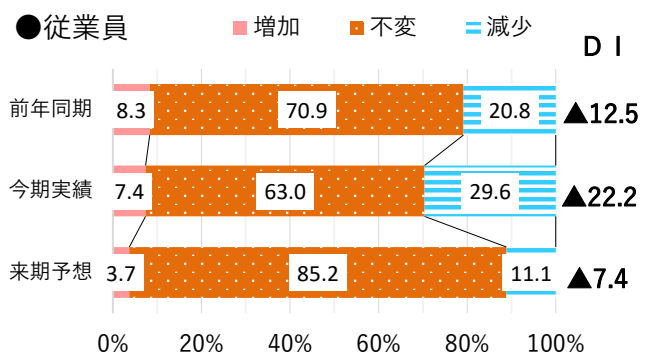
来期は、仕入単価が下降に転じると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲22.2で、前年同期と比べ9.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

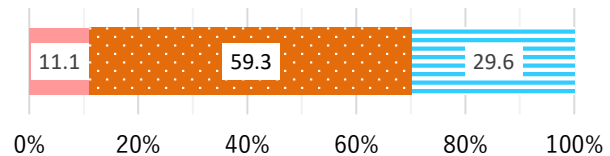


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.1%、適正であると回答した企業の割合は59.3%、不足していると回答した企業の割合は29.6%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の40.7%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	4

資金繰り、設備投資

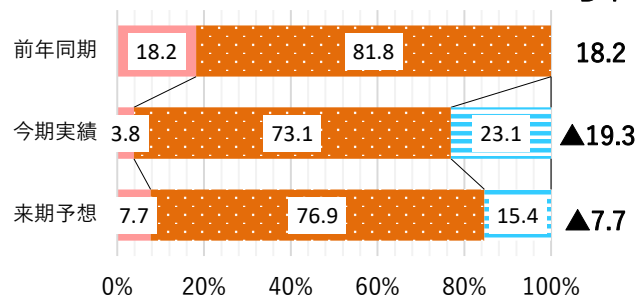
今期の資金繰りDIは▲19.3で、前年同期と比べ37.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

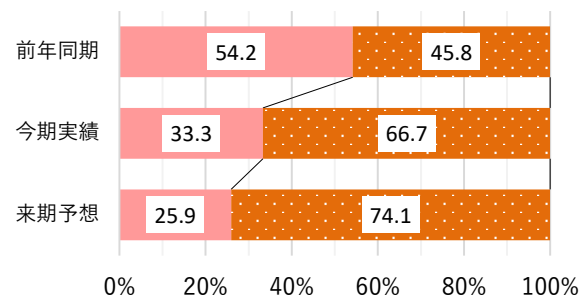
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ20.9%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.9%で、減少を予想しています。

●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化

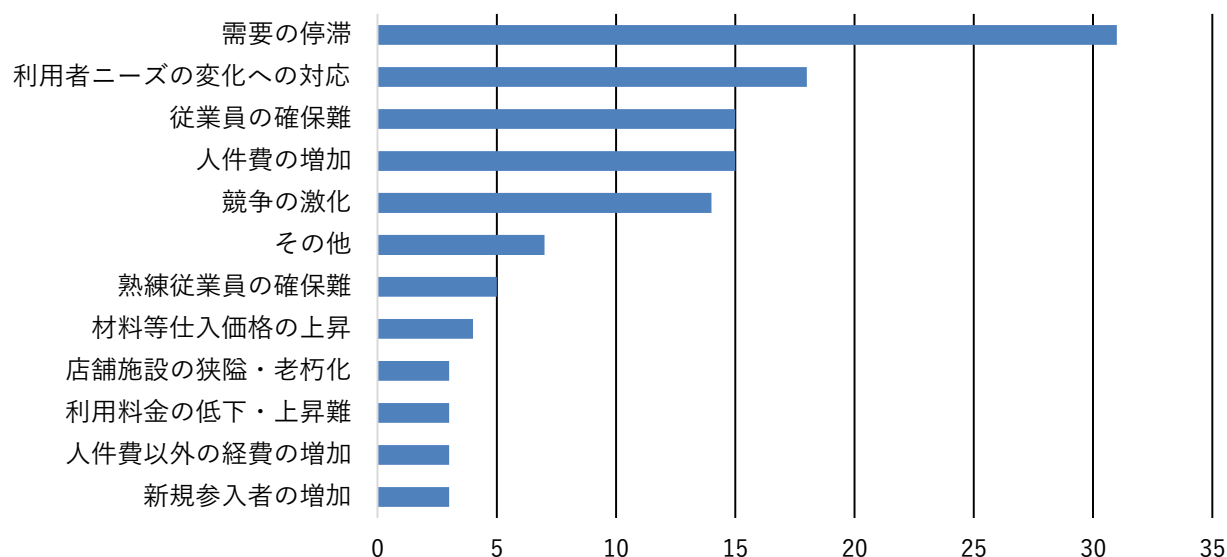


●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルス第3波によってG o T oキャンペーンが停止されたことで、売上が減少した。春の第2波以上の影響を受けており、ここまで深刻な状況になると想像できなかった。（飲食店）
- 前半はプレミアム付商品券やG o T oキャンペーンの効果で好調だったが、後半は新型コロナウイルスの感染拡大により不調となったため、平均すると例年並みの業況だった。（飲食店）
- G o T oキャンペーンにより、10月の業況はやや好転した。11月以降はテイクアウトによる少額の売上のみで、店内での飲食は全くない。（飲食店）
- 10月は好転の兆しが見えたが、11月は売上が大幅に減少した。（飲食店）
- 修学旅行と国内客の宿泊を除き、取引はほぼ皆無である。（旅行代理店）
- 売上は昨年同期比で増加した。従業員数と賃金は不変だった。新型コロナウイルスの影響で、来店のサイクルが不規則になっており、客数の多い日と少ない日の差が激しかった。（美容業）
- 8月以降は回復傾向にあったが、コロナ禍により来場者が大幅に減少し、今期全体では減収増益だった。（スポーツ施設）
- 10～11月の客数は、前年同期比で60%減少した。（写真業）
- 新型コロナウイルスにより、業況が大きく悪化した。（出版業）
- 利用客が減少した。（不動産代理・仲介業）
- コロナ禍の為、顧客との面談数が減少している。（保険業）
- 学生を中心に利用客数が増加した。コロナ禍のため、一部サービスを停止した。（教養・技能教授業）

[来期の業況について]

- 冬が終わらなければ、新型コロナウイルスの感染者は減らないのではないかと。早急なワクチンの供給に期待する。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの影響で、地元客、市外客問わず増加を期待できない。（飲食店）
- 新型コロナウイルスへの対策はある程度把握できたので、来場者の増加を図りたい。（スポーツ施設）
- 新型コロナウイルスが終息すれば、業況が上向くだろう。（出版業）
- 今期同様に、客数の減少が続くと思われる。（写真業）

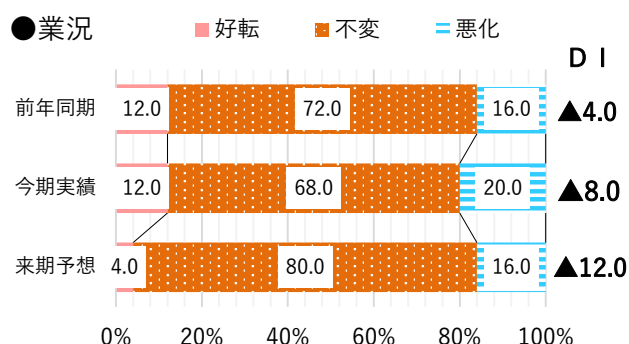
- 今期同様の状況になると思う。新型コロナウイルスの流行が終息し、企業の社員旅行や海外旅行が少しでも戻ることに期待したい。（旅行代理店）
- 1 2 月が繁忙期だったため、1 月以降は売上が伸び悩むと思われる。また、成人式の延期によって売上が減少する。卒業式関連の予約が入っているので、3 月は例年通りを見込む。（美容業）
- 今期と同様の傾向が続くと思われる。（保険業）
- 繁忙期に入るため、売上や利用客数の増加傾向が続く見込みである。（教養・技能教授業）

建設業

業況、売上、採算

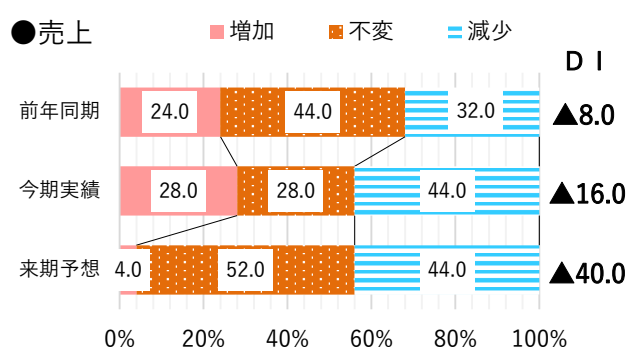
今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲8.0で、前年同期（2019.10～12）と比べ4.0ポイント低下しました。

来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



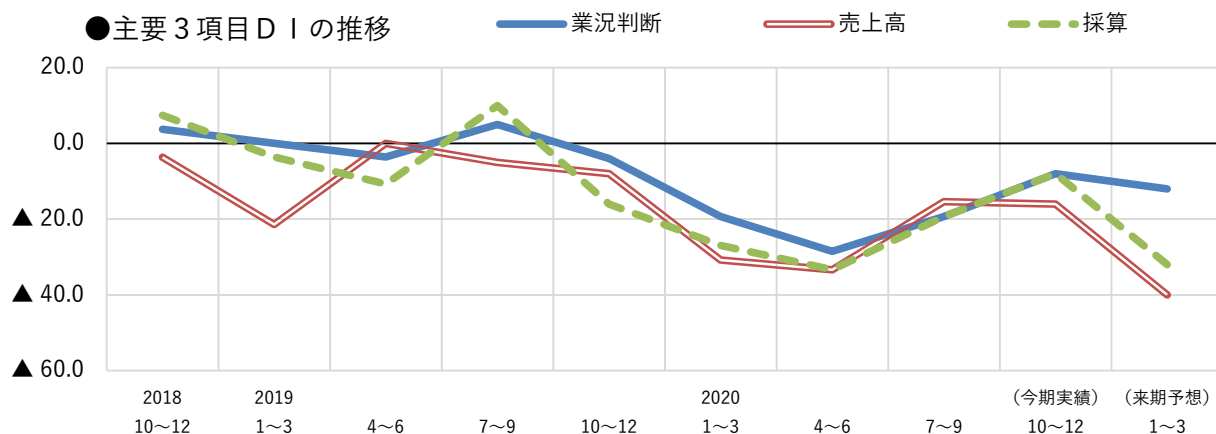
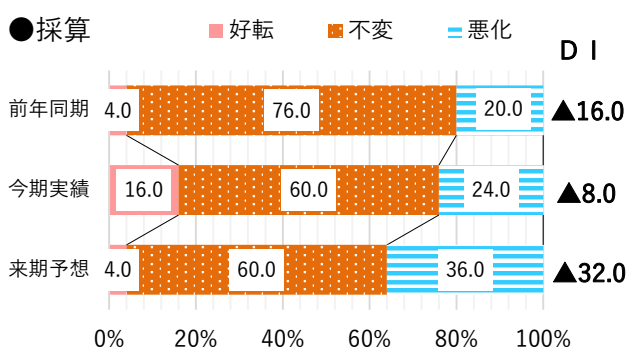
今期の売上高DIは▲16.0で、前年同期と比べ8.0ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲8.0で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

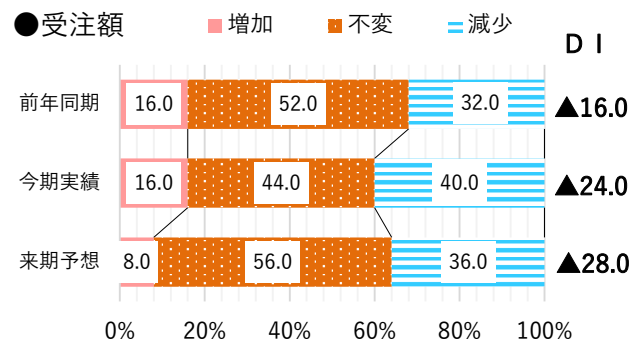
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

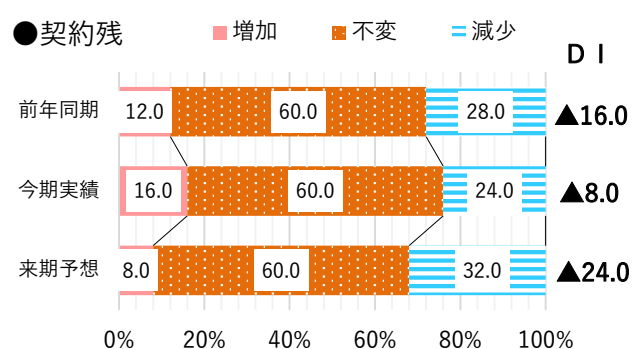
今期の受注額DIは▲24.0で、前年同期と比べ8.0ポイント低下しました。

来期は、受注額の減少傾向が続くと予想しています。



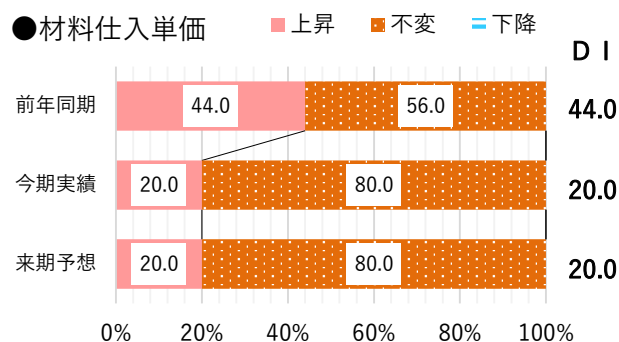
今期の契約残DIは▲8.0で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期は、契約残の減少傾向が強まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは20.0で、前年同期と比べ24.0ポイント低下しました。

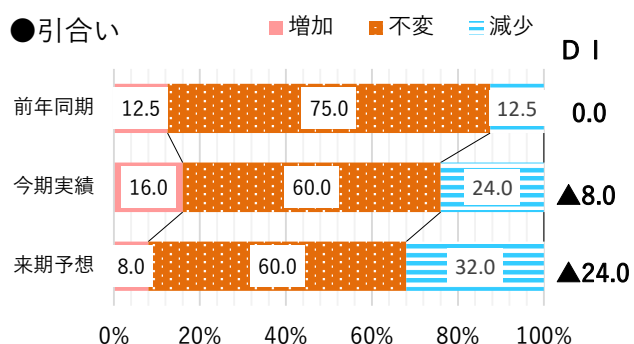
来期は、材料仕入単価の横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲8.0で、前年同期と比べ8.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

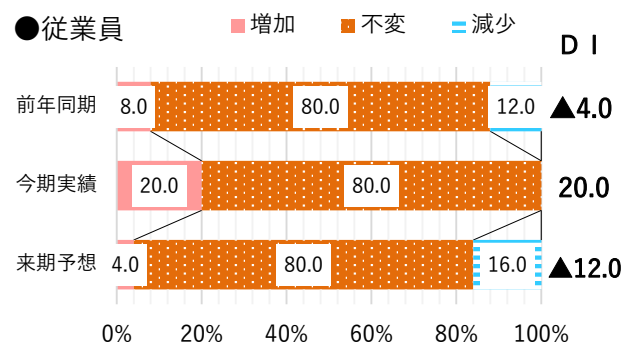
来期は、引合いの減少傾向が強まると予想しています。



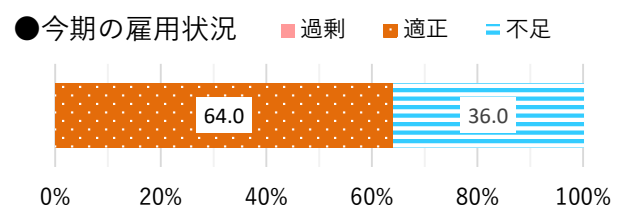
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは20.0で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数が減少に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.0%、不足していると回答した企業の割合は36.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の48.0%を占めています。

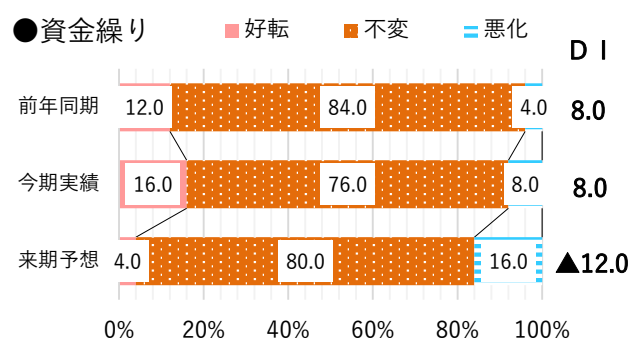
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

資金繰り、設備投資

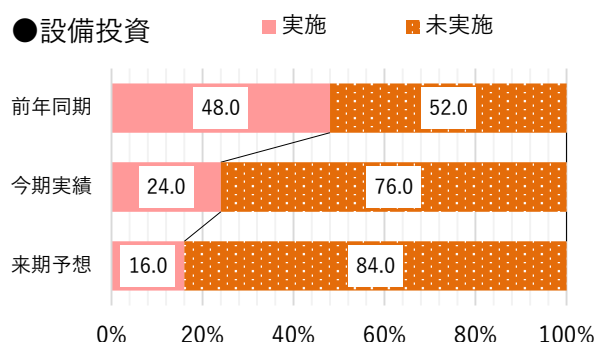
今期の資金繰りDIは8.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、資金繰りが悪化に転じると予想しています。



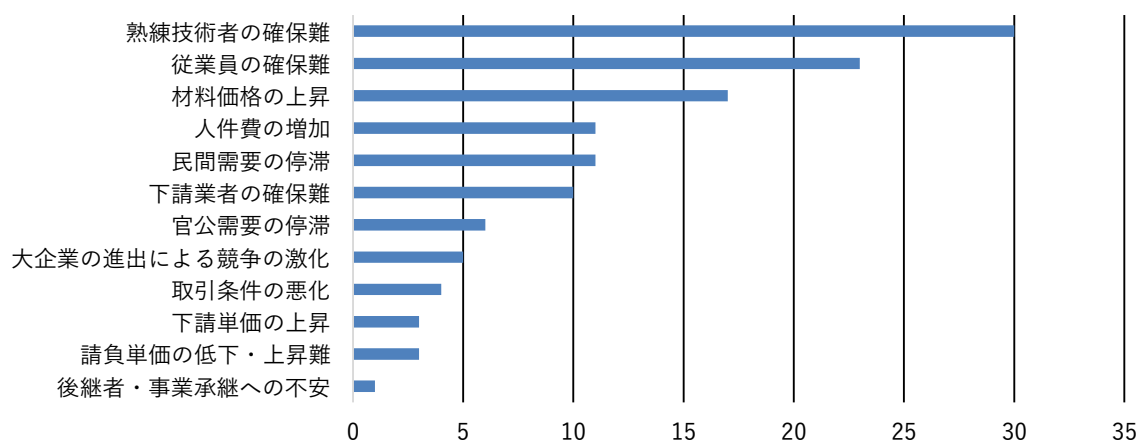
設備投資を実施した企業の割合は24.0%で、前年同期と比べ24.0%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は16.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「熟練技術者の確保難」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 多くの業者が出入りするリフォーム等を中心に、個人客が工事を見合わせるケースが多い。新型コロナウイルスが終息するまで、厳しい状況が続くと思われる。(一般土木工事業)
- 昨年同期比の売上は横ばいで、他の項目も大きな変化はなかった。(一般管工事業)
- 売上と受注件数が20～30%増加し、仕入単価は5%ほど上昇した。(職別工事業)
- 他社よりも工事の単価を引き上げてもらったため、売上が上昇した。(職別工事業)
- 官公庁の換気等に係る工事の受注件数が増加した。個人住宅向けの工事は減少した。(設備工事業)
- 新型コロナウイルスの影響はそれほど無く、例年より好況だった。(設備工事業)
- コロナ禍においてもおおむね堅調に推移しているが、民間の引合いが弱かった。(造園業)
- 新型コロナウイルスの影響で売上、受注件数が減少した。(造園業)
- 新規事業に着手した結果、作業幅が拡大し、業況が好転した。人材は常に不足している。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 例年は次年度の案件が動き始める時期だが、コロナ禍のため、需要は低下すると思う。(一般管工事業)
- 新型コロナウイルスの影響は予想できない。(職別工事業)
- 売上が減少すると思われる。(職別工事業)
- 新型コロナウイルスの影響で、公共工事等の予算が減少した場合、自社の売上も減少する。(設備工事業)
- 新型コロナウイルスの状況により、個人住宅の工事量の変動する。(設備工事業)
- 新型コロナウイルスの影響を注視したい。(造園業)

市内企業倒産状況

2020年10月～12月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比減少
負債総額は1,800万円、前年同期比減少

倒産件数		負債総額	
1件		1,800万円	
前年同期比	件数 - 1件 (前年同期 2件)	負債 - 4億1,400万円 (前年同期 4億3,200万円)	
■10月 なし			
■11月 なし			
■12月 陶器販売（負債1,800万円：販売不振による破産）の1件が発生した。			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2020年10月～12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は75件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は49棟64戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数	
75件		49棟64戸	
前年同期比	件数 +4件 (前年同期 71件)	戸数 -9棟-41戸 (前年同期 58棟105戸)	
※変更確認又は変更通知を除く。			